



The Creed of Junior Chamber International

JCI 綱領

We Believe :

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

我々はかく信じる：

真理は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家による統治を超越し
公正な経済は我々の自由な経済活動に
よってこそ果たされ
政府には人治ではなく法治が必要であり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最大の使命である

<1947 年世界会議総会採択>

<1951 年一部追加>

JCI Mission

To provide leadership development
opportunities that empower young
people to create positive change.

JCI ミッション

青年会議所は、青年が社会により良い変化を
もたらすためにリーダーシップの
開発と成長の機会を提供する。

<2008 年世界会議総会採択>

JCI Vision

To be the foremost global network
of young leaders.

JCI ビジョン

青年会議所が、若きリーダーの
国際的ネットワークを先導する組織となる。

<2008 年世界会議総会採択>

JC 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

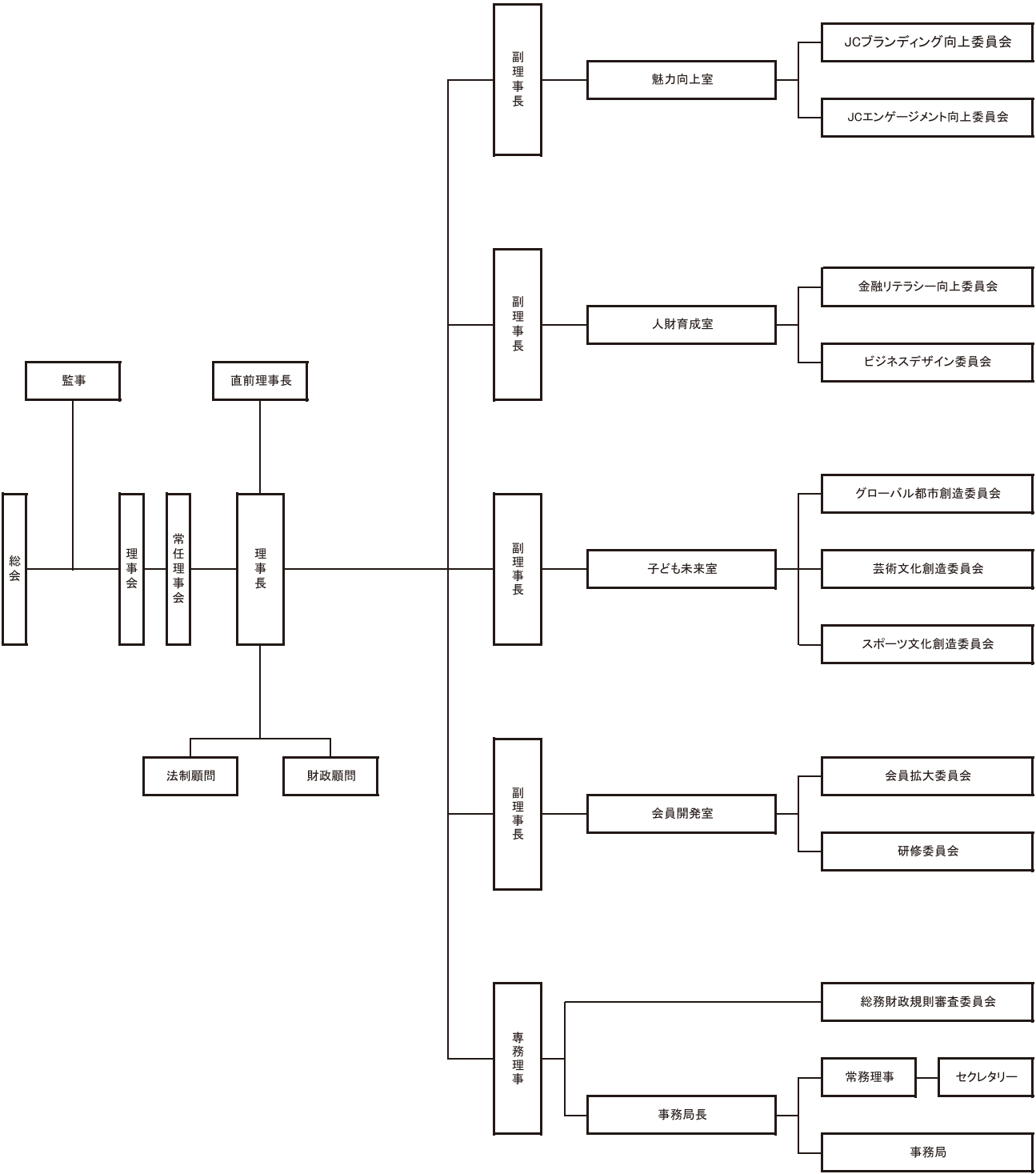
綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

— 目 次 —

2026年度	組織図	2
2026年度	役 員	3
2026年度	理事長所信	4
2026年度	理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務理事、セクレタリー	10
2026年度	室・委員会 基本方針・事業計画	12
2026年度	室・委員会 所務分掌規程	28
2026年度	委員会編成表	30
	青年会議所の概況	31
2026年度	日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図	32
	福岡青年会議所 歴代理事長	35
	出向外部団体一覧	36

一般社団法人 福岡青年会議所
2026年度 組織図



一般社団法人 福岡青年会議所 2026年度 役員

理 事 長	伊 東 健 太 郎	直前理事長	尾 本 勝 征
副 理 事 長	田 原 義 也 田 雑 嘉 貢 原 翼 鶴 和 晃	監 事	大 幡 則 文
		法 制 顧 問	立 部 真 康
専 務 理 事	小 菅 良 助	財 政 顧 問	西 方 亮 祐

常 任 理 事	中 井 新 一 小 柳 佑 貴 浦 田 慎 也 近 藤 圭 坪 井 智 之	事務局長 魅力向上室長 人財育成室長 こども未来室長 会員開発室長
理 事	吉 丸 耕 平 宮 崎 祥 平 友 田 圭 祐 三 苦 弘 典 菅 原 是 道 羽 川 礼 華 近 藤 瑛 理 瀬 尾 昂 平 舩 田 和 博 高 見 慎 也 倉 掛 裕 輔 濱 田 正 輝 牛 島 淳 嗣	JCブランディング向上委員長 JCエンゲージメント向上委員長 金融リテラシー向上委員長 ビジネスデザイン委員長 グローバル都市創造委員長 芸術文化創造委員長 スポーツ文化創造委員長 会員拡大委員長 研修委員長 総務財政規則審査委員長 (日本青年会議所 副委員長) (九州地区協議会 委員長) (福岡ブロック協議会 委員長)
常 務 理 事	安 心 院 将 平 松 山 馨	

変革



理事長 伊東健太郎

はじめに

日本の未来が明るいと言え、自信をもって言える人はどれだけいるのでしょうか。

進み続ける少子高齢化による人口減少で、消滅可能性都市の存在が叫ばれたり、技術大国とかつて言われた日本も他国と比較すると技術革新が進んでおらず、日本経済の先行きが不透明であつたりと不安なことをあげればきりがありません。

日本におけるJC運動の始まりとされる1949年9月3日に採択された「青年会議所設立趣意書」の冒頭には「新日本の再建は我々青年の仕事である」と記載されており、日本の未来を自分たちの力で創る決意をしました。社会が不安で満たされているときこそ、「明るい豊かな社会」という希望の光を灯し、次世代のために未来を創ることが私たちの変わらぬ使命なのです。

1949年の戦後の状況とはもちろん違いますが、次世代の子どもたちが未来へ希望をもって成長していくためには、今こそ日本のそして福岡の理想の未来を本気で考え、本気で実現できるように動いていく必要があります。目の前の課題に囚われず、今の私たちが理想の未来を描き、しっかりと実行していくことは、簡単なことではありません。理想の未来を描き、それを実現しようとするなかで、時に無理だと言われ笑われることもあるでしょう。しかし、当事者意識をしっかりとってその理想を実現するべく行動していくことが未来を創るということであり、今の私たちに求められていることなのではないでしょうか。私たちだけでは未来を創ることは当然できませんので、産学官民を巻き込み、変革のうねりを起こすべくJC運動に邁進していきましょう。

福岡のまちと一体になってこそそのJC運動

過去に先輩たちが行ってきた様々な福岡青年会議所の事業は、間違いなく福岡のまちのためになっていますが、その一方で福岡青年会議所による事業であることが、十分に福岡のまちに認識されていなかったり、どんな運動を行っているのかをうまく周知できていなかったりすることが多々あります。2025年度から開始したSNSを活用した福岡市民に対する福岡青年会議所のブランディングは一定の成果を間違いなくあげています。ブランディングは1年で達成できるものではなく、継続していく必要があります。2026年度も福岡青年会議所のブランディングを行

い、ファンを増やしていきます。福岡青年会議所が実施している事業に共感していただき、参加していただくことはもちろんのこと、入会して一緒に活動をしてみたいと思う人が増え、そして福岡青年会議所のこの事業に協力してみたいと思う企業が増えることを目標にしていきます。福岡のまちから真に愛される団体になったとき、私たちの運動が今まで以上に効果を発揮するはずです。

エンゲージメントが高まることによる効果

200 人に近いメンバーがいる福岡青年会議所ですが、そのうち何名が青年会議所に本気で向き合い、福岡のまちを本気で変えていきたいと思っているのでしょうか。残念ながら 100%のメンバーがそう思っているわけではないと思います。より多くのメンバーを巻き込むためには、福岡青年会議所への帰属意識を育んでいくことは欠かせません。そのために、福岡青年会議所が今年どんなことに力を入れていくのか、そしてどのような未来を目指しているのかといったビジョンをメンバーにしっかりと認識してもらう必要もありますし、メンバー同士のコミュニケーションを促進し、横のつながりを強固にしていく必要もあります。一人ひとりの意識改革の結果、今まで以上にマンパワーを発揮できる組織へと変貌を遂げ、ピーク時には 400 人を超えていた当時の福岡青年会議所にまちへの思いだけでなく、まちからの期待の大きさに負けない組織を作っていきます。

福岡のまちの可能性

日本とアジアの玄関口である福岡市は、ソウルや上海など東アジアの大都市に近く、2,000 年以上にわたり外交・貿易の要衝として発展してきました。アジアの GDP は急速に成長し、2030 年には世界の成長の 60%を占めると予測されています。その立地と AI などの新しい技術を組み合わせることで持続的な経済発展を成し遂げる必要があります。新しい技術により、生産性を高めることで人手不足を解消するとともに、所得のみならず、ワークライフバランスを向上させることで、豊かな暮らしを目指していく必要があります。新たな技術を活用し、創業できる環境づくりの加速、そして既存のビジネスから新たなビジネスを生み出す第二創業に関しても加速させていくことで海外から見ても魅力的なビジネス、そして福岡のまちという魅力的な市場を生み出す必要があります。

また、福岡市は国際金融機能の誘致に取り組んでいます。天神ビッグバンで生まれたオフィススペースの活用にも重要ですが、福岡のまちから起業をして GAFAM のような世界で戦うことのできる企業を育てていくためには、ベンチャーキャピタルや国際的な取引を行っている金融機関が必要になります。既に複数の企業誘致に福岡市は成功していますが、これから、海外の金融機関がより福岡のまちに魅力を感じてもらうためには、福岡における金融人財の育成や国際

社会で生き抜く力をもった人財が必要になります。福岡のまち全体として、金融リテラシーを高めていくことで福岡のまちが香港やシンガポールを超える国際金融都市になる未来の礎を築いていきましょう。

福岡のまちの明るい未来のために

福岡のまちが中長期的に発展し、素晴らしいまちであり続けるためには、今福岡に住み暮らす子どもたちにかかっています。この福岡のまちを心から愛し、福岡のまちのことを本気で考えてくれる子どもたちが増えれば増えるほど福岡のまちの未来は明るくなります。2022 年に策定した 5 か年計画であるこども未来都市宣言から 3 年間が経過し、グローバル・アート・アクションスポーツをテーマに福岡のまちで事業を実施し、まちに一定の変化をもたらすことができました。今年度も継続するとともに、深化を図る一年にしていきます。福岡のまちは社会の成熟が進み、人々の価値観や生き方が多様化したことで、画一的な幸福の形は存在せず、幸福の形も個々人によって異なります。その中で心身が健康で、社会的にも満たされた状態である「ウェルビーイング」が求められます。グローバル・アート・アクションスポーツを通じて、子どもたちが自らの幸せを見つけることができる環境を整えていきます。また、事業実施のあとには、こども未来都市宣言の再定義をし、次年度以降へと繋げていきます。

まず、グローバルに関してですが、コロナウイルスの収束により、インバウンドは盛り返してきた一方で、外国の方に話しかけられた際、笑顔で対応し簡単な英会話でコミュニケーションをとることができるというよりは、おどおどしている日本人の姿をいまだによく見かけます。今、福岡に住み暮らす子どもたちが不自由なく国際交流することができる状況をつくることで、子どもたちが世界を知り、そして改めて福岡のまちの魅力に気づくことができます。世界には姉妹 JC である釜山 JC、城市 JC、サウスサイゴン JC をはじめ、120 か国以上の国でのネットワークがありますので、今まで以上にそのネットワークを活用していく必要があります。

また、この VUCA 時代 (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity が特徴的な予測困難な時代) を生き抜くために、アートやスポーツを通じて子どもたちの感性が磨かれる必要があります。絵を見ることを通じて、その絵の背景や隠されたストーリーを学ぶことや、受動的に目に入るテレビやインターネットでの動画配信とは違い実際に絵を描き、自己表現をすることで子どもたちの感性を育むことができます。スポーツに関しても同じことが言えます。実際に体を動かし汗を流すだけでなく、時に仲間とともに涙を流すこともあるでしょう。その過程で子どもたちの感性は間違いなく磨かれていきます。芸術文化・スポーツ文化が福岡のまちのなかで確立されること、そしてこのまちに根付かせることが必要になります。

産学官民の連携を活用する

福岡青年会議所は基本的に自分たちの会費で公開例会や事業を行う独立自尊の組織ゆえ、自分たちで議論を交わし、自由に運動を発信できているわけですが、我々だけでできる運動の大きさには限界があります。2024 年度に福岡青年会議所が主管 LOM となって実施された全国大会において、産学官民と連携した際に生まれたエネルギーやまちの変化を私たち自身が体験したと思います。私たちの運動を最大化するためには、産学官民と連携していく必要があると同時に、我々が連携に値する団体である必要があります。関係各所に対してのヒアリングはもちろんのこと、中長期的な良好な関係を維持していく必要があります。単年度制の青年会議所において、来年以降への引継ぎが最も重要になります。やりっぱなしには決してせず、また我々とタッグを組んで福岡のまちを盛り上げていきたいと思ってもらえる団体であり続けましょう。

持続可能な組織であるために

会員拡大は年齢制限がある我々の団体において必要不可欠です。私たち福岡青年会議所が福岡のまちに対して運動を起こしていく中で、仲間の数が多ければ多いほど、運動がより多くの福岡市民に拡散し、福岡のまちに多くのインパクトを残すことができます。福岡青年会議所のみならず、各地の青年会議所で会員減少が問題になっています。会員数が減り続けているイメージもありますが、日本全体で見ると 2000 年からコロナ禍以前の 2019 年まで、20 歳から 40 歳までの人口 1 万に対して 11 人の会員数という割合は変わっていません。全国での平均になるので、単純に福岡に置き換えることはできませんが、福岡市は現在 20 歳から 40 歳までの人口は約 44 万人いますので、まだまだ拡大の余地は間違いなくあります。私たちメンバー全員で本気で取り組んでいく必要があります。その一方で、どんな人でも入会することができる団体で我々はあってはいけません。我々に共感してくれる志が同じくする仲間を探していく必要もあります。青年会議所内だけの交友関係ではなく、様々なところに顔を出し、積極的に仲間を見つけていきましょう。

また、福岡青年会議所の門を叩いた新たな入会者たちが、当たり前のように当事者意識をもってまちの課題に対し向き合っていく環境をつくる必要があります。誰かがやってくれるという思いを捨て、自らが周りの人たちを巻き込んで事態を打開していく人財が多くなればなるほど、今まで以上のスケール感で事業を実施することができます。研修委員会だけが新たな入会者に研修をすればいいという意識は捨て、新たな入会者への研修は福岡青年会議所のメンバー全員で行っていく意識をもって意味のある研修を実施していく必要があります。

時代とともに進化できる組織

福岡青年会議所には不文律を含めるとかなりの数の規則があり、すべてが今の時代に即しているかどうか見直す必要があります。持続可能な組織であるためには、常に今年度だけでなく、5

年度、10 年後の未来の運営を見据えて自分たちの組織の見直しをやっていく必要があります。ただ一方で、我々は長い歴史を紡いできた組織でもありますので、経緯や当時の状況をしっかりと把握したうえで判断し、それを記録に残していくことが求められます。我々が大切に守ってきたものはしっかりと残して次の世代へと繋げ、時代にそぐわないものは変えていくことで、組織として進化していきましょう。また、福岡青年会議所のメンバーの時間は無限ではありません。限られた時間を有効に使うことが、最大の成果を生み出す原動力となります。組織の見直しを行った上で、常に効率的な運営を考えることにより福岡青年会議所として最大限のパフォーマンスを発揮できます。

JC の無限の可能性

JC には様々な機会があります。もちろんすべての機会を取りにいくのは難しいですが、その機会を得た知識や人脈というものは多ければ多いに越したことはありません。福岡青年会議所のなかにも多くの機会が散らばっています。趣味の会への参加や OB との交流や姉妹 JC との交流を積極的に行うことで、普通に暮らしていれば出会うことがなかった人に出会う可能性もありますし、ビジネスの機会を手に入れることができるかもしれません。まずは福岡青年会議所にすでにある機会を使い倒してみてください。その上で、福岡ブロック協議会、九州地区協議会や日本青年会議所への出向も考えてみてください。新たな出会いや成長が各出向先であると思います。私自身も 2024 年度に日本青年会議所に委員長として出向しましたが、そこで出会う他の青年会議所のメンバーからかなりの刺激を受けましたし、その際に多くの出会いがありました。学んだことや人脈をしっかりと福岡青年会議所に還元していくことで、より強い組織へと変えていきましょう。

常に感謝の気持ちをもって

私たちの青年会議所での活動や運動は家庭や会社の理解の上に成り立っていることを意識し、常に感謝の気持ちをもって行動をしてください。JC における会議への参加によって夜の時間に家庭において不在にすることもあるでしょう。その際、配偶者やほかのだれかが、あなたに代わって家事や育児をしています。ときに、仕事をはやめに切り上げる必要があるときもあるでしょう。その際はあなたの会社の誰かがあなたのサポートをしてくれています。家庭や会社をないがしろにすることは本末転倒であり、まちづくりをする団体として、やるべきまず第一歩は私たち自身の手が届く範囲での周りの人たちを幸せにすることです。家族や会社に共感を得られない状態で、福岡のまちに住み暮らす人たちから私たちの運動に共感を得られることはないでしょう。

最後に

まちを変えることは簡単なことではありません。ただ、私たちが変わってほしいと願うだけでは絶対に変わりません。私たち自身が当事者意識をもって行動に移さない限り、福岡のまちは変わりません。私たち自身がまちの未来を想い、具体的に実行できた時、福岡のまちは変わります。この JC という団体に所属した以上、常に新しいチャレンジをし続けてください。JC しかない時代ではなく、JC 以外にも様々な団体がありますが、未来を見据えて、時に周囲の方々から不可能だと思われることも挑戦し続けることが許される団体は JC しかありません。5 年後、10 年後、さらにその先の未来を見据えて運動をし続けましょう。また、JC は前向きな挑戦による失敗が許される団体でもあります。新しいことをやる際に失敗を恐れることもあるかもしれませんが、前向きな挑戦のなかで生まれた失敗は次年度以降の成功のための貴重な糧となります。今年失敗したとしても、次年度以降のメンバーが必ず、それを教訓として成功に結び付けてくれるはずです。1 年間という時間は長いようであつという間です。失敗を恐れず、福岡のまちのための一歩を強く踏み出し、圧倒的な当事者意識をもってともに未来を変えましょう。



理事長
伊 東 健太郎

President
Kentaro Ito



直前理事長
尾 本 勝 征

Immediate Past President
Katsumasa Omoto



副理事長
田 原 義 也

Executive Vice President
Yoshiya Tahara



副理事長
田 雑 嘉 貢

Executive Vice President
Yoshitsugu Tazo



副理事長
原 翼

Executive Vice President
Tsubasa Hara



副理事長
鶴 和 晃

Executive Vice President
Kazuaki Tsuru



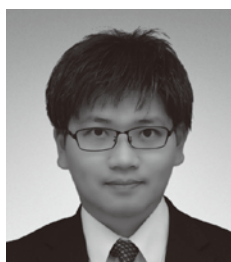
専務理事
小 菅 良 助

Senior Executive Director
Ryosuke Kosuga



監 事
大 幡 則 文

Auditor
Norifumi Ohata



法制顧問
立 部 真 康

General Legal Counsel
Masayasu Tachibe



財政顧問
西 方 亮 祐

Treasurer
Ryosuke Nishikata



事務局長
中 井 新 一

Secretary-General
Shinichi Nakai



常務理事
安心院 将 平

Managing Director
Shohei Ajimu



常務理事
松 山 馨
Managing Director
Kaoru Matsuyama



セクレタリー
石 川 卓 弥
Secretary
Takuya Ishikawa



セクレタリー
黒 木 祐 太
Secretary
Yuta Kurogi



セクレタリー
山 下 正 太
Secretary
Shota Yamashita



室 長 小 柳 佑 貴

●基本方針

福岡青年会議所は、地元・福岡市およびその周辺地域の発展を目的に、地域活性化やまちづくりに関する多様な事業を展開してまいりました。

偉大な先輩諸氏が築き上げられた信頼と実績は、今日の福岡青年会議所を支える確かな礎であり、その組織力と影響力は地域社会から高く評価されています。

しかし、時代の変化とともに、社会における価値観や情報発信の在り方も大きく変化しています。私たちは、こうした環境の中で、福岡青年会議所というブランドをより多くの人々に理解・共感してもらうこと、そしてメンバー一人ひとりが誇りとやりがいを持って活動に参画できる環境をつくることが重要であると考えています。

魅力向上室では、SNSを活用した発信を強化し、福岡青年会議所の理念・運動・歴史をわかりやすく、そして魅力的に伝えることで、組織としてのブランディングの確立を図ります。あわせて、メンバーの声や想いを共有し合える機会を創出し、メンバーのエンゲージメント向上につながる運動を推進してまいります。

メンバー全員の組織への愛着心および貢献意欲を高めることを目標とし、「我々の運動が福岡の未来を創る」という自覚と誇りを持って行動してまいります。

時代の変化に柔軟に対応しながら、一人ひとりがさらなる成長を遂げ、福岡青年会議所の運動を一層活発化させ、地域社会との継続的な関係を築いてまいります。

JCブランディング向上委員会

委員会スローガン【Enjoy the Challenge, Be a Tough Challenger !】



委員長 吉丸 耕平
副委員長 山下 一喜
拡大総務幹事 古賀 彩華
運営幹事 佐藤 大輔
会計幹事 土井 勇太
広報幹事 坂田 太望
補佐幹事 岩永 喜朗
濱田 正輝
佐伯 瞳
高 李 浩世
千種 祐香
濱 直 章
光山 将
横田 銀次
吉田 伸彦

●基本方針

70年という歴史の上で、これまでに先輩方が積み重ねてきた福岡青年会議所の事業は、福岡のまちのためになっているものばかりです。一方で時代の変化にあわせてSNSを活用した発信を2025年度から本格的に始めましたが、まだまだ福岡青年会議所の事業が十分に福岡のまちに知られていなかったり、福岡青年会議所がどんな運動を行っているのかをうまく発信できていなかったりすることが課題となっています。

当委員会は新春例会で2026年度の方向性をメンバーに示し、行政や他団体の方々にも共感していただくとともに、SNSなどを活用し福岡のまちの人々にも情報を発信していきます。SNSで幅広くファンを拡大していくには、新しい情報や興味を惹く内容を構成し、継続的に発信し続けることが大切です。福岡青年会議所が行う事業はもちろん、京都会議やサマーコンファレンスなど様々な場所で行われる運動の魅力をよりわかりやすく、身近に感じていただけるよう発信していきます。そして、人と人のコミュニケーションにおいて対面での接点は非常に重要です。当委員会では各種事業に参加された方々などに福岡青年会議所の団体の魅力を伝え、各種SNSのフォロワーやファン拡大に力を入れていきます。

福岡青年会議所のファンを増やし、福岡のまちから真に愛される団体になったとき、福岡青年会議所のメンバーが今以上に誇りを持ち活動していくことができ、福岡のまちと一体となってより良いまちづくりへとつながります。

情報化が進み、発信手段が日々変化する今、臆することなく様々な手法に挑戦していかなければなりません。加えて魅力あるコンテンツを発信するには、発信する情報の魅力を深く理解するとともに、制作者自身が前向きに取り組むことが重要です。日々、挑戦を楽しみ、メンバー同士が切磋琢磨する委員会は、次世代を築いていくアクティブな人財を作っていきます。

●事業計画

□LOMの運動、活動が多くの人の目に触れるような情報発信の仕組みづくり

〈目的〉情報発信をすることで、多くの人に福岡青年会議所の運動、活動を知ってもらうこと。

〈方法〉既存のSNSの活用、各種事業を通じて、対外を目的とした情報発信を行う。

□LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施

◇LOMホームページの管理・運営

〈目的〉福岡青年会議所の取り組みや事業を広く情報発信して魅力を感じてもらうこと。

〈方法〉ホームページをリニューアルして、福岡青年会議所の魅力を対外に発信する。

◇LOM紹介映像の制作

〈目的〉対外：福岡青年会議所のメンバーや活動を知り、魅力を感じてもらうこと。

対内：福岡青年会議所の魅力を認識して、誇りを持ってもらうこと。

〈方法〉2026年度版のLOMの紹介動画をつくり、新春例会や各種事業、ホームページで放映する。

◇各種行事・事業の対外・対内への事前・事後情報発信

〈目的〉対外：福岡青年会議所の取り組みや事業を広く情報発信すること。

対内：各種行事や事業への参加への機運を高めること。

〈方法〉ホームページやSNSで、理解を深め魅力を感じてもらうための情報発信を行う。

◇SNSなどを利用した情報発信の企画・管理・運営

〈目的〉対外：福岡青年会議所の運動、活動を知ってもらうこと。

対内：メンバーにスポットを当て活動への機運を高めること。

〈方法〉各種スケジュールとともに福岡青年会議所の魅力あれるコンテンツで情報発信を行う。

◇プレスリリースに関する事項

〈目的〉各種メディア媒体に情報発信を行い事業への参加促進とブランディング向上を図ること。

〈方法〉プレスリリースのフォーマットをつくり、市政や県政記者クラブに発信する。

◇持続可能な組織づくりのための継続的なファンづくり

〈目的〉情報発信をすることで共感を生み、福岡青年会議所のファンを増やしていくこと。

〈方法〉最新の情報や福岡青年会議所の魅力などSNSで継続的に発信を行う。

JCブランディング向上委員会

- LOM活動の効果的な对外情報発信に関する企画・管理・運営
 - ◇外部団体からの取材などに関する対応
 - 〈目的〉外部団体と友好な関係を築き、情報交換をするとともに福岡青年会議所の活動を発信してもらうこと。
 - 〈方法〉外部団体に対してプレスリリースを定期的に発信して関係を強化する。
 - ◇LOM活動における写真・動画などの記録・管理
 - 〈目的〉福岡青年会議所の活動を後世に残していくこと。
 - 〈方法〉各種取り組みや事業に参加して、写真や動画で記録を残す
 - ◇新春例会の実施（1月）
 - 〈目的〉2026年度の方針を理解して、活動意欲を高めること。
 - 〈方法〉多くのメンバーが揃うための参加促進とモチベーションを上げるための企画運営を行う。
 - ◇国際金融都市としての未来を描くことのできる公開例会の情報発信（4月）
 - 〈目的〉対内・体外への情報発信により参加の促進と取り組みへの共感によるファンを作ること。
 - 〈方法〉SNSやメディアを使った広報活動を行う。
 - ◇誰もが新たなビジネスに取り組むことができるための公開例会の情報発信（5月）
 - 〈目的〉対内・体外への情報発信により参加の促進と取り組みへの共感によるファンを作ること。
 - 〈方法〉SNSやメディアを使った広報活動を行う。
 - ◇ブランディングの重要性をLOM内に周知するための通常例会の実施（7月）
 - 〈目的〉団体や企業が発展していくためブランディングの重要性を学ぶ機会を提供すること。
 - 〈方法〉講師を招き例会の企画運営を行う。
- 対外アンケートに関する事項
 - 〈目的〉対外から見た福岡青年会議所の実情を理解すること。
 - 〈方法〉各種行事や事業への参加者やSNSでのアンケートによって情報収集を行う。
- 会員拡大・研修に関する事項
 - 〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
 - 〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。
- 非会員の個人情報の管理に関する事項
 - 〈目的〉個人情報を集めファンの拡大につなげること。
 - 〈方法〉SNSやアンケートを通じて個人情報を集め、ファン拡大のためのアプローチと管理を行う。
- 非常災害時における支援に関する事項
 - 〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。
 - 〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（ホームページ作成議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議（新春例会計画）		6月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 審議（7月通常例会計画）	ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年
12月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（ホームページ作成議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 審議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 審議（新春例会計画）		7月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）	サマーコンファレンス（横浜） 通常例会実施（7月）
2026年 1月		京都会議・新春例会（1月） ホームページ更新・紹介動画	8月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 審議（7月通常例会報告）	九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）	第3エリア合同例会	9月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）	
3月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 審議（新春例会報告）		10月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）	全国大会（神戸）
4月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）		11月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）	世界会議（クラーク）・釜山周年
5月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案） <input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議（7月通常例会計画）	下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・ 広島定期交歓会	12月	<input type="checkbox"/> 討議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 協議（推進議案）	送るタベ

JCエンゲージメント向上委員会

委員会スローガン【Link the Future ～ココロオドル NO.1 委員会～】



委員長 宮崎 祥平
副委員長 瀬戸口 将太郎
拡大・総括幹事 村上 瑤
運営幹事 副田 直矢
会計幹事 河野 秀平
広報幹事 秋吉 光太郎
補佐幹事 中谷 元優
大前 恒明
小野瀬 泰星
工藤 大明
坂本 稔樹
左近 春香
橋本 真杜
前田 翔吾
四通田 美果

●基本方針

近年、社会環境や価値観の多様化により、福岡青年会議所のメンバー一人ひとりの関わり方が変化し、組織としての一体感や共通の目的意識を保つことが難しくなっています。かつて「仲間のため」「まちのため」に一丸となって行動していた私たちも、今はそれぞれが自らの立場や環境の中で最善の関わり方を模索する時代を迎えました。先輩方が築いた誇りと精神を次代へ継承するためには、改めて「メンバー同士のつながり」を強化することが求められています。

本年度は、メンバー・家族・卒業生・地域とのつながりを有機的に結び直し、「福岡」というまちの未来を共に創る基盤づくりに取り組みます。まず「ファミリーレクリエーション」では、福岡青年会議所の活動を家族に理解してもらうため、例年より早い時期に開催します。また、「JCI香港周年交流」を通じて国際的なネットワークを広げ、世界の青年と価値観を共有し、地域の可能性をグローバルな視点で学びます。

さらに、出向者の活動が十分に共有されていない現状を踏まえ、JCブランディング向上委員会と連携し、SNSなどを活用して出向の魅力を発信することで、新たな学びや成長をLOMに還元し、組織全体の絆を深めます。

そして「送るタベ」では、1年間を通じて築かれた友情の輪の中で、昭和61年生まれの卒業生の功績と想いをたたえ、その背中から学ぶことで、歴史と伝統を未来へと継承します。

私たちは「メンバーの絆を深め、笑顔と感謝が循環する福岡青年会議所とまちづくり」を実現しなければなりません。委員会活動を通じて生まれる絆は、メンバー一人ひとりの成長を超え、地域の発展へとつながり、福岡青年会議所の存在意義そのものです。まちの発展と青年会議所の成長が相互に支え合う未来を築き、まちが青年会議所を必要とする循環を生み出していきます。仲間・家族・卒業生・地域が一体となり、「福岡青年会議所で活動してよかった」と心から感じられる一年にします。その絆と感謝の輪が福岡のまちに息づき、次代へと続く希望となるよう、本委員会はその礎を築いてまいります。

●事業計画

◇福岡ブロック第3エリア合同例会の実施（2月）

〈目的〉第3エリアが相互理解を深め、連携を強化することで、広域的な運動の発展をめざす。

〈方法〉第3エリア内の各LOMと協働し、意見交換と共創を促す例会を企画・実施する。

◇ファミリーレクリエーション例会の実施（3月）

〈目的〉青年会議所活動を支える家族に感謝を伝え、家庭と組織がともに歩む温かい関係を築く。

〈方法〉家族が笑顔で楽しめる体験型の交流事業を実施し、絆を深める機会とする。

◇LOM内の交流を促進する通常例会の実施（10月）

〈目的〉メンバー同士の交流関係を強化し、福岡青年会議所全体の一体感と当事者意識を高める。

〈方法〉意見を交わし合える企画を取り入れ、参加意欲を喚起する例会を構築する。

◇短縮例会の実施（2月・3月・12月）

〈目的〉限られた時間を有効に活用し、効率的な運営を通じて参加率と集中力の向上を図る。

〈方法〉内容を精査し、目的を明確にした進行構成で時間短縮と充実を両立する。

◇送るタベの企画・実施（12月）

〈目的〉昭和61年生まれの卒業生への感謝を形にし、想いと誇りを次代へつなぐ機会とする。

〈方法〉心に残る演出と感謝の言葉で、福岡青年会議所らしい門出の場を創出する。

◇出向者の支援に関する事項

〈目的〉出向メンバーの挑戦を委員会で支え、その経験や学びを組織全体の成長へと還元する。

〈方法〉定期的な情報共有や交流の場を設け、安心して出向できる支援体制を整える。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月	□討議□協議（10月通常例会計画）	ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年
12月	□討議□協議□協議□協議 （2月短縮例会 第3エリア合同例会計画） □討議□協議□協議□協議 （3月短縮例会 ファミリーレクリエーション計画）		7月	□討議□審議（10月通常例会計画）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月	□討議□審議□協議□審議 （2月短縮例会 第3エリア合同例会計画） □討議□審議□協議□審議 （3月短縮例会 ファミリーレクリエーション計画）	京都会議	8月	□討議□協議□協議□協議 （12月短縮例会 送るタベ計画）	九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月		短縮例会実施（2月） 第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議 （12月短縮例会 送るタベ計画）	
3月	□討議□審議 （2月短縮例会 第3エリア合同例会報告）	短縮例会実施（3月） ファミリーレクリエーション	10月		全国大会（神戸） 通常例会実施（10月）
4月	□討議□審議 （3月短縮例会 ファミリーレクリエーション報告）		11月	□討議□審議（10月通常例会報告）	世界会議（クランク）・釜山周年
5月		下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・ 広島定期交歓会	12月		短縮例会実施（12月） 送るタベ



室 長 浦 田 慎 也

●基本方針

人口減少が進む日本において、地域の未来をつくる原動力は「人」であり、人を育てることこそが最も重要な課題です。

福岡は地理的な強みと多様な人が集まる魅力を持ちながらも、世界で通用する視野やリーダーシップを磨く機会はまだ十分ではありません。しかし、これは次の時代を担う人を育てる大きなチャンスでもあります。

人財育成室としては、福岡から新しいビジネスが次々と生まれる環境をつくり、創業や事業の進化を後押ししていきます。新たな会社を立ち上げる「第一創業」だけでなく、既存の事業を発展させる「第二創業」も加速させることで、海外からも注目されるビジネス都市・福岡を目指します。また、お金の知識を学ぶことは、これからの時代を生きるうえで欠かせない力です。

金融リテラシーの向上は、個人の生活を安定させるだけでなく、地域の企業が成長し、新しいビジネスが生まれる土台にもなります。お金を単なる数字としてではなく、「未来を切り拓く力」として正しく理解し、活かせる人を増やしていくことが、私たちの使命です。若い世代が金融や経済の知識を身につけ、自ら考え行動できるようになることで、福岡から新たな挑戦や企業が次々と生まれます。そして、福岡が世界から信頼される金融・ビジネス都市として発展していくことを目指します。

私たちの歩みが、福岡のまちの未来を明るく照らす確かな光となるよう、これからも邁進してまいります。

金融リテラシー向上委員会

委員会スローガン【金融 × 利他 × 未来 — 共に学び、共に豊かに】

●基本方針

福岡市は「スタートアップ都市宣言」を掲げ、アジアの玄関口として世界から注目を集めています。私たち金融リテラシー向上委員会は、この福岡の挑戦を、市民一人ひとりの成長へとつなげる役割を担います。当委員会は「金融を誰もが身近に感じられる社会をつくる」ことを合言葉に活動します。お金の仕組みを知ること、私たちの生活を豊かにし、自分の人生を主体的に選び取る力となります。

そのために、「国際金融都市とは何か」「それが福岡の暮らしにどんな変化をもたらすのか」「そもそもお金とは何か」を共に考える公開例会を開催します。また、学生や若い世代、地域の方々が自分ごととして金融を学べる事業を展開し、行政・企業・教育機関と連携して、まち全体の金融リテラシーを高める運動を発信していきます。難しい専門用語をかみくだき、誰もが実生活に活かせる知識として学べる環境を整えていきます。

委員会運営においては、メンバー一人ひとりが主体的に学び、互いの考えを尊重しながら挑戦できるチームを目指します。金融を通じて自ら考え、行動する力を養うことが、次の時代の福岡を支える人材育成にもつながります。圧倒的な当事者意識をもって、共に学び、共に成長し、福岡に金融リテラシーの輪を広げてまいります。

●事業計画

◇金融リテラシー向上のための調査・研究

〈目的〉市民が金融をより身近に理解し、自らの生活に役立てられるよう調査・研究を行う。

〈方法〉行政・専門家・金融機関と連携し、福岡市民の金融リテラシーの現状を調査。課題や傾向を整理し、その成果を活かして、市民に寄り添った事業を展開する。

◇ASPAC（新潟）への参加促進、LOMナイトの企画・実施

〈目的〉ASPACに参加し、よりグローバルな視点を身につけること。海外LOMとの連携を強化すること。

〈方法〉ASPACの内容を発信し、参加することの意義やメリットを伝え、参加促進を行う。

◇調査・研究に基づく事業の実施

〈目的〉調査・研究で得られた知見を基に、市民の金融リテラシーを高める事業を展開する。

〈方法〉市民向けのワークショップや講演会を開催し、実生活に役立つ金融知識を学ぶ機会を創出する。

◇釜山JCに関する事項

〈目的〉釜山JCとの交流を通じ、国際的視野を広げ、メンバーの成長につなげる。

〈方法〉オールメンバーの集いでのアテンドや釜山JC周年式典への参加促進を行う。

◇国際金融都市としての未来を描く公開例会の実施（4月予定）

〈目的〉国際金融都市福岡の将来像を描き、市民と共に考える機会を創出する。

〈方法〉専門家や実務家を招き、「国際金融都市とは何か」「それが福岡の暮らしにどんな変化をもたらすのか」をわかりやすく発信する。

◇トリオJCに関する事項

〈目的〉トリオJCとの交流を通じ、さらなる関係強化と相互理解を深める。

〈方法〉周年事業や交流事業の企画・運営に協力し、友好関係をより強固にする。

◇九州地区大会への参加促進（8月）

〈目的〉九州地区大会の意義を理解し、多くのメンバーに参加してもらう。

〈方法〉ファンクション参加を促進し、大会を通じてJC運動を共有する。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員長	友田 圭 祐
副委員長	山口 武 蔵
拡大・総括幹事	加地 英 紀
運営幹事	林 伸 太 郎
会計幹事	新 井 敏 晃
広報幹事	福 島 憲 人
補佐幹事	古 川 紀 嘉
	牛 島 淳 嗣
	川 島 裕 司
	合 谷 賢 太
	近 藤 桃 香
	長 島 義 弘
	平 井 裕 登
	松 岡 大 輝
	大 和 尚 之

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月		ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年事業実施（6月）
12月	□討議□協議（4月公開例会計画）		7月		サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月	□討議□審議（4月公開例会計画） □討議□協議□協議□協議（事業計画）	京都会議	8月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		9月		
3月		第3エリア合同例会	10月		全国大会（神戸）
4月		公開例会実施（4月）	11月		世界会議（クレーク）・釜山周年トリオ会議
5月	□討議□審議（4月公開例会報告）	下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・広島定期交歓会	12月		送るタベ

ビジネスデザイン委員会

委員会スローガン【探求 × 挑戦 = 創造】



委員長	三 苦 弘 典
副委員長	藤 岡 勇 樹
拡大総括幹事	氣賀澤 暢 真
運営幹事	山 本 雄 貴
会計幹事	山 田 明 仁
広報幹事	島 本 導 晃
補佐幹事	小 野 可那絵
	阿 部 秀 樹
	坂 田 圭 未
	中 川 昂 大
	新 納 裕美子
	西 原 宗 佑
	野 田 真 禎
	針 尾 洋 平
	山 田 哲 也

●基本方針

福岡は古くから人・文化・技術が交わり、新たな価値を生み出してきた都市です。急速な社会変化の中で、今、個人や企業が自ら考え、行動し、挑戦する力が求められています。青年経済人である私たちも、変化を恐れず、自らの手で未来をつくる意識を持たなければなりません。しかし、現状に満足し、挑戦の一步を踏み出せない人が多いのも事実です。だからこそ本委員会では、行動したくなるマインドを醸成し、挑戦が自然と生まれる環境づくりを目指します。私たちが育むべきは、完璧を求める姿勢ではなく、一步踏み出す勇気と仲間とともに学ぶ姿勢です。挑戦の連鎖を生み出すことこそが、青年会議所運動の本質であり、まちの発展につながると信じます。

本委員会は、「探求、挑戦、創造」を理念に掲げ、第一創業・第二創業の推進を軸に活動します。創業を志す市民や、新たな事業展開を考える経営者が、挑戦の一步を踏み出すための実践的な支援を行います。行政機関や金融機関、経済団体などと連携し、学びや交流の機会を通じて、参加者が自らのアイデアを形にし、行動へとつなげる環境を整えます。単なる知識提供ではなく、「やってみたい」を「やってみよう」に変える挑戦の循環をつくり出します。

また、メンバーもこの事業に関わることで、まちの可能性と自身の成長を同時に体感することができます。仲間とともに挑戦し、試行錯誤を重ねる過程そのものが、次の時代を切り拓く原動力になります。私たちの考える「創造」とは、新しいアイデアを出すことではなく、行動から得た学びを形に残し、次の挑戦へとつなげていくことです。探求と挑戦の積み重ねが創造となり、やがて福岡の未来を明るく照らす力になると信じ、行動する委員会を目指してまいります。

●事業計画

◇第一創業、第二創業を推進する事業に関する調査・研究

- 〈目的〉地域における起業・事業承継の実態を把握し、福岡のビジネス創出環境をより良くするための基盤を整えることを目的とする。
- 〈方法〉行政機関・金融機関・経済団体・大学などと連携し、創業・第二創業に関する支援制度や成功事例を調査。課題やニーズを整理したうえで、LOMとして果たすべき支援の方向性を研究する。

◇第一創業、第二創業を推進する事業の実施

- 〈目的〉創業を志す市民や、既存事業の第二創業・新分野展開を目指す経営者が、一步を踏み出すための実践的な支援を行う。
- 〈方法〉調査・研究で得た知見をもとに、創業者同士の交流・実践型ワークショップ・専門家によるメンタリングなどを実施。参加者が自らのビジネスプランを形にし、地域経済の新たな価値創造につなげる。

◇ASPAC（新潟）への参加促進、LOMナイトの企画・実施

- 〈目的〉ASPACに参加し、よりグローバルな視点を身につけること。海外LOMとの連携を強化すること。
- 〈方法〉ASPACの内容を発信し、参加することの意義やメリットを伝え、参加促進を行う。

◇調査・研究に基づく事業の実施

- 〈目的〉調査・研究で得られた知見を基に、ビジネスにおいて挑戦する意識を高める事業を展開する。
- 〈方法〉調査・研究で得た知見をもとに、挑戦するマインドを醸成するためのワークショップや実践プログラムを実施する。参加者が自ら課題を設定し、行動を通じて学ぶ仕組みを取り入れることで、挑戦する意識を日常の行動へとつなげる。

◇釜山JCに関する事項

- 〈目的〉釜山JCとの交流を通じ、国際的視野を広げ、メンバーの成長につなげる。
- 〈方法〉オールメンバーの集いのアテンドや釜山JC周年式典への参加促進を行う。

◇誰もが新たなビジネスに取り組むことができるための公開例会の実施（5月予定）

- 〈目的〉創業を目指す市民や、既存事業の発展・転換を考える経営者が、ビジネスの第一歩を踏み出すきっかけをつくる。
- 〈方法〉創業支援や金融、企業経営者の専門家を招き、実践的な事例紹介やワークショップを実施。参加者が自らのアイデアを整理し、実現に向けた道筋を描けるような具体的な発案を生み出すきっかけにする。

◇トリオJCに関する事項

- 〈目的〉トリオJCとの交流を通じ、さらなる関係強化と相互理解を深める。
- 〈方法〉周年事業や交流事業の企画・運営に協力し、友好関係をより強固にする。

◇九州地区大会への参加促進（8月）

- 〈目的〉九州地区大会の意義を理解し、多くのメンバーに参加してもらう。
- 〈方法〉ファンクション参加を促進し、大会を通じてJC運動を共有する。

◇会員拡大・研修に関する事項

- 〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
- 〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

- 〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。
- 〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月		ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年事業実施（6月）
12月			7月	□討議□審議（5月度公開例会報告）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		京都会議	8月		九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月	□討議□協議（5月公開例会計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	
3月	□討議□審議（5月公開例会計画） □討議□協議□協議□協議（事業計画）		10月		全国大会（神戸）
4月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		11月		世界会議（クラーク）・釜山周年トリオ会議
5月		下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・広島定期交歓会公開例会実施（5月）	12月		送るタベ



室長 近藤 圭

●基本方針

少子化や社会の成熟化、そしてAIや国際化の進展により、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。多様な価値観が広がる現代において、子どもたちが自らの幸せを見出し、未来への希望を描けるまちをつくることは、私たち大人の使命です。2022年に提言された「こども未来都市宣言」から4年、福岡青年会議所は、福岡のまちの未来を担う子どもたちのために、多様な分野での挑戦を重ねてきました。

2026年度、こども未来室は「グローバル」「芸術」「スポーツ」の三分野を通じて、子どもたちの感性・創造力・挑戦心を育む事業を展開します。異文化に触れる驚き、創造する喜び、身体を動かす楽しさ、通して、福岡のまちの魅力を再発見し、未来を描く力を育てます。

これまで培ってきた産学官民との連携と福岡青年会議所のネットワークを活かし、子どもたちが「福岡で生きること誇りを持てる」まちの実現を目指します。

福岡は、スポーツ、芸術、食、音楽、祭りなど多彩な文化が根づく魅力あふれる国際都市です。子ども未来室は、この福岡の持つ可能性を最大限に引き出し、次世代の子どもたちとともに新しい文化を創造し、一人ひとりが自らの幸せを見いだせる環境づくりを進めてまいります。

グローバル都市創造委員会

委員会スローガン【BORDERLESS ～グローバルから育む人への想い～】

●基本方針

福岡市は「アジアの玄関口」として、多様な人や文化、経済が行き交う都市として成長してきました。近年、インバウンドは過去最高を記録、外国籍市民の増加、デジタル化の進展等により、急速なグローバル化の過程にあります。

その結果、グローバルな要素が増えてきている一方で、国際的インフラの不整備、異文化への理解不足、コミュニケーション問題など、解決すべき課題があるのも事実です。

福岡のまちが持続的に成長し、国際競争力をさらに高めるためには、グローバル都市を推進できる人財を増やす必要があります。そのために国際の機会を提供し続けることが、私たちの使命であります。

2022年の「こども未来都市宣言」に基づき、私たちはFUKUOKAを担う子どもたちへグローバルの機会を創出してきました。4年目となる今年度は、福岡青年会議所が推進するアジアNo.1都市への動きをさらに加速させます。そのためには異文化を知り、視野を広げたくて、福岡の特性を再認識し、未来を考え、誇り持つことが必要です。海外の人とのリアルな交流や、異文化を学び体験できる機会を創出することで、子どもだけでなく保護者も学びを得て、郷土愛を育む事業を構築します。

委員会メンバーには、異文化への既成概念・自身の常識を捨ててもらいます。そのうえでヒアリングや現地調査など、事業構築プロセスを通じて改めてグローバルに触れ学ぶことで、感性を磨く1年間にして欲しいと思っています。従来の思考に新たな感性が加わることで、新しい価値を創出する人財へと成長できます。見識を広げることが将来の選択肢を増やし、幸せな人生へとつながっていくと信じています。

またJC活動をするうえで、ほんの少しの一工夫を心掛けましょう。誰かのために一工夫という真心が自分を変え、気づけば相手も変わる、互いを切磋琢磨する環境を作り上げます。国際の機会を通して国境を超えた想いやりを持つ人財を育成し、将来の福岡青年会議所を担うリーダーを輩出します。

●事業計画

◇グローバル都市を推進していく事業に関する調査・研究

〈目的〉福岡におけるグローバル都市としての現状のステータスを正しく認識したうえで、課題の発見をすること。

〈方法〉従来から構築してきた関係各所及び新掘した関係各所からのヒアリング、それに付随する現調を行う。

◇調査・研究に基づく事業の実施

〈目的〉グローバルに触れることで、自己の知見を広げるとともに、福岡のまちを再認識すること。

〈方法〉調査・研究から得られた関係各所との連携を軸に、既存の手法に捉われない、リアルな国際交流の機会を提供する。

◇福岡の新たな価値創造を考える公開例会の実施（8月）

〈目的〉福岡の持つ可能性と課題を見つめ直し、未来のまちづくりに向けて新たな視点を再認識してもらうこと。

〈方法〉有識者を講師としてお招きし、福岡の新たな価値創造に関する課題や取り組みについて講演していただく。

◇世界会議（クラーク）の参加促進、LOMナイトの企画・実施

〈目的〉LOMが世界会議の趣旨目的を理解し、LOMナイトにてメンバー同士の懇親を深めること。

〈方法〉JCブランディング向上委員会との連携による参加促進、現地でのLOMナイトの設営。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。

また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員長	菅原 是道
副委員長	小池 直人
拡大・総括幹事	白水 雄二
運営幹事	徳田 成寿
会計幹事	青柳 竜太
広報幹事	青木 佑介
補佐幹事	岡田 一志
	石井 光
	鎌田 晋太郎
	津田 浩
	平川 靖徳
	平野 由衣
	保利 一晶
	三浦 匠

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月	□討議□審議（室合同8月公開例会計画）	ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年
12月			7月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		京都会議	8月		室合同公開例会実施（8月）九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		10月	□討議□審議（室合同8月公開例会報告）	全国大会（神戸）
4月			11月		世界会議（クラーク）・釜山周年 LOMナイト設営
5月	□討議□協議（室合同8月公開例会計画）	事業実施（5月） 下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・ 広島定期交歓会	12月		送るタベ

芸術文化創造委員会

委員会スローガン【All for smile All for you】



委員長 羽川 礼華
副委員長 前田 幹太
拡大総括幹事 廣田 匡則
運営幹事 金 涼佳
会計幹事 吉中 佑太
広報幹事 中村 凌
補佐幹事 市瀬 正明
倉掛 裕輔
楠原 さつき
高畑 隼人
坂田 裕之
篠崎 絵理
永松 賢二
米村 祐太

●基本方針

福岡市は「Fukuoka Art Next」を推進していますが、芸術文化が一部の人のものと捉えられ、市民が日常的に触れる機会が限られています。また、子どもたちが自分で考え、表現する機会が不足しており、創造力を育む機会が足りていないことが課題です。そこで、子どもたちが身近な施設で気軽に芸術文化を学び、表現の場を得られる環境を整えることで、感性豊かな次世代を育成します。将来的には、磨かれた感性を持った人財が集い、新たな産業や文化が生まれる都市として、福岡の魅力を世界へ発信していくことが期待されます。

そのために当委員会では、子どもたちが芸術文化に触れ合う機会をつくり、自身の学びを表現できる場を提供し、子どもの豊かな感性を磨いていける事業を実施します。事業後には自律的に学ぶ機会を与え、家族や仲間とアートを通して、新たな感性を創出したり新たな自分を発掘できたりと、子どもたちが自ら幸せを見つけていくことができる教育環境の変化の一助となります。福岡青年会議所は、子どもたちアートに触れる機会を創出してきましたが、こども未来都市宣言の4年目に入る今、産学官民とより強い連携を取り、成果を生み出します。

当委員会は、メンバー自身も福岡市の芸術文化に興味を持ち、感性を磨き、所務を最大限楽しむことを軸に新しい気づきや学びを得ながら、成長することを大事に、福岡市の子どもたちにとって福岡青年会議所のメンバーとの出会いが自身の未来へつながっていくようなひとづくりをします。「すべてはみんなの笑顔のために、すべてはあなたのために」を胸に、幸福感に満ち、笑顔が溢れる委員会を目指します。人に優しい感性豊かな人財を数多く輩出し、福岡青年会議所に新たな風を吹き込み、より魅力のある団体へと成長させます。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

●事業計画

◇芸術文化を活用したまちづくり・ひとづくり事業に関する調査・研究

〈目的〉芸術文化に対する課題を見つけ、よりよい事業を実施すること。

〈方法〉過去に関連する委員会や行政・企業など関係各所へのヒアリングを行う。

◇調査・研究に基づく事業の実施（5月）

〈目的〉芸術文化を通じて、子どもの可能性を生み出し、芸術文化と子どもたちの未来の発展の一助になること。

〈方法〉自由に創造し、表現する場を作るとともに、福岡市に住み暮らす人たちが芸術の魅力を感じる環境を創出する。

◇福岡の新たな価値創造を考える公開例会の実施（8月）

〈目的〉福岡の持つ可能性と課題を見つめ直し、未来のまちづくりに向けて新たな視点を再認識してもらうこと。

〈方法〉有識者を講師としてお招きし、福岡の新たな価値創造に関する課題や取り組みについて講演していただく。

◇趣味の会に関する事項 茶道同好会の支援

〈目的〉シニアメンバーと趣味の会を通じて親睦を深める事。

〈方法〉各種趣味の会の会長、キャプテンと調整を図り、各会の運営補助、サポートを行う。

◇サマーコンファレンスの参加促進、LOMナイトの企画・実施

〈目的〉サマーコンファレンスへの参加促進と出向者の慰労をすること。

〈方法〉フォーラムとセミナーへの参加依頼、及びLOMナイトの開催。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。
また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月	□討議□審議（室合同8月公開例会計画）	ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年
12月			7月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		京都会議	8月		九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年 室合同公開例会実施（8月）
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議（室合同8月公開例会報告）	
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		10月		全国大会（神戸）
4月			11月		世界会議（クランク）・釜山周年
5月	□討議□協議（室合同8月公開例会計画）	事業実施（5月） 下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・ 広島定期交歓会	12月		送るタベ

スポーツ文化創造委員会

委員会スローガン【Together, We Create. 一人ひとりの力で、未来を動かす】



●基本方針

現代は、便利さの裏で「考える力」や「感じる力」を失いつつあります。理事長が掲げる「変革」とは、まさにこの時代の中で、もう一度「人が主体的に未来を描く力」を取り戻すことだと私たちは考えます。

ICT機器の普及により、子どもたちは必要な情報を瞬時に得られるようになりましたが、その一方で、考える前に答えが手に入る環境が、創造力や主体性を育む機会を奪いつつあります。かつて当たり前にあった「遊びながら考える」姿が失われ、地域のつながりにも影響を及ぼしています。

福岡のまちが中長期的に発展し、素晴らしいまちであり続けるためには、このまちを心から愛し、挑戦を楽しめる子どもたちの存在が欠かせません。2022年に掲げられた「こども未来都市宣言」以降、アクションスポーツを通じて子どもたちの挑戦を応援する流れが生まれています。アクションスポーツは、もともと遊びの中から生まれ、自由な発想と挑戦の中で育ってきたスポーツです。令和8年には国内最大級のスケートボードパークが開設予定であり、子どもたちが遊びや挑戦を通じて自分らしさを表現できる舞台が広がっています。

私たちは、この動きを一過性の流行で終わらせず、地域に根づく文化として定着させることを目指します。そのために、スポーツ・文化・創造を通じて、挑戦を「観る・支える・創る」人を増やす事業を企画・実施し、地域全体で子どもの挑戦を応援する機運を高めます。また、行政や企業と連携し、青年会議所だからこその「人の想いをつなぐ共感の場」を創出し、子どもたちの挑戦を支える大人の関わり方や、地域での協働の仕組みを生み出します。

そしてこの一年、メンバー一人ひとりが主役となり、挑戦を楽しみながら成長できる委員会運営を行います。互いの強みを活かし、役職や経験にとらわれず、フラットに意見を交わしながら行動を通じて変化を起こしていきます。誰かの挑戦を支え、仲間の成功を自分の喜びに変えられるチームの中で、主体的に行動し、次代を担う人財を輩出します。

この一年を通じて、スローガン「Together, We Create. 一人ひとりの力で、未来を動かす」を体現し、メンバー全員が互いを高め合いながら成長できる環境を築いていきます。

●事業計画

◇スポーツを活用したまちづくり・ひとづくり事業に関する調査・研究

〈目的〉スポーツを通じて地域に活力が生まれる仕組みを明らかにし、その社会的価値を再認識してもらうこと。

〈方法〉スポーツに関わる多様な立場の人々へのヒアリングを行い専門分野にとらわれず、多角的な視点から福岡におけるスポーツの社会的価値を整理・分析する。

◇調査・研究に基づく事業の実施

〈目的〉スポーツが持つ「人と人をつなぐ力」や「まちを動かす力」を再認識してもらうこと。

〈方法〉スポーツの持つ交流・創造の力を体現する事業を企画・実施し、市民がまちの魅力や人のつながりを再認識できる場を創出します。

◇福岡の新たな価値創造を考える公開例会の実施（8月）

〈目的〉福岡の持つ可能性と課題を見つめ直し、未来のまちづくりに向けて新たな視点を再認識してもらうこと。

〈方法〉有識者を講師としてお招きし、福岡の新たな価値創造に関する課題や取り組みについて講演していただく。

◇趣味の会に関する事項（迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブの支援）

〈目的〉シニアメンバーと趣味の会を通じて親睦を深める事。

〈方法〉各種趣味の会の会長、キャプテンと調整を図り、各会の運営補助、サポートを行う。

◇サマーコンファレンスの参加促進、LOMナイトの企画・実施（室合同）

〈目的〉サマーコンファレンスへの参加促進と出向者の慰労をすること。

〈方法〉フォーラムとセミナーへの参加依頼、及びLOMナイトの開催。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員長 近藤 瑛理
副委員長 梶田 真仁
拡大総括幹事 本間 晃平
運営幹事 熊本 大治
会計幹事 倉富 大樹
広報幹事 畑原 歩
補佐幹事 古閑 勇佑
市丸 浩太
亀元 友弥
下川 浩平
正岡 憲
水城 寛司
峰崎 悠

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月	□討議□審議（室合同8月度公開例会計画）	ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年
12月			7月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		京都会議	8月		九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年 室合同公開例会実施（8月）
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		10月	□討議□審議（室合同8月度公開例会報告）	全国大会（神戸）
4月			11月		世界会議（クラーク）・釜山周年
5月	□討議□協議（室合同8月度公開例会計画）	事業実施（5月） 下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・ 広島定期交歓会	12月		送るタベ



室 長 坪 井 智 之

●基本方針

福岡青年会議所は、会員数の減少が顕著です。福岡青年会議所の人数が増えるほど、福岡のまちに大きな影響を与える運動を行うことができるため、会員数の増加を図ることが必要です。そして、新たな入会者が青年会議所の三信条を理解し、当事者意識を持って、まちの課題に向き合っていくことができる環境をつくり、そのような人財へと育てていく責任があります。

福岡青年会議所が、今後も強い組織であるためには、どんな人でも入会できる団体ではなく、福岡青年会議所の理念や運動に共感してくれる、志を同じくする仲間が入会したいと思える団体をつくっていく必要があります。そのために、会員拡大委員会は、人脈や経験の豊富なシニアとの交流、そして他の団体との連携を積極的に進め、横のつながりを広げてまいります。その交流の輪を福岡青年会議所全体へと広げ、組織が一丸となって拡大目標の達成を目指します。そして、新たに入会したメンバーを研修委員会が中心となり、福岡青年会議所のメンバー全体を研修の過程に巻き込み、全員で研修を実施していきます。

会員開発室では、会員拡大委員会と研修委員会との連携を密に図り、会員の入会率を上げる工夫を相互に連携し、これまででにないアクティブな新たなメンバーを増加させ、福岡青年会議所全体に新たな風を吹かせます。

会 員 拡 大 委 員 会

委員会スローガン【戮力協心】

●基本方針

近年、働き方の多様化やオンラインによる人間関係の変化など、社会環境は大きく変わっています。人との関わりが希薄になり、地域や組織への帰属意識も薄れつつある中で、青年会議所も例外ではありません。自分の時間を優先する価値観が広がり、まちや組織のために時間を使う意義が伝わりにくくなっています。その結果、会員数の減少や活動への温度差が生まれ、拡大活動が一部の限られた人に依存する傾向があります。しかしこの現状は、私たち一人ひとりが当事者意識を持ち、行動することで、人とのつながりを取り戻し、組織に活気を生み出せると考えます。

当委員会は、人との関わりを通じて青年会議所の価値を伝え、輪を広げることを目的とします。拡大は単にメンバーを増やすことではなく、志を同じくする仲間と出会い、関わりの中で新たな気づきと刺激を得ることです。そのために、委員会メンバーが魅力を理解し、自信と誇りを持って語れる存在になる必要があります。先輩との交流や歴史を学び、築かれてきた信頼や志を受け継ぎ、次の仲間を惹きつける人財へ成長します。

そして、新しい出会いを求めるだけでなく、出会いを通じて組織の意義や温かさ、行動の力を伝えることが使命です。シニアクラブや趣味の会との交流では、積み重ねられた信頼と絆を学び、得た想いを新たな出会いに活かします。また、サウスサイゴンJCとの交流では、異なる文化や価値観に触れ、柔軟な発想と広い視野を育みます。これらは出会いの質を高め、つながる力を強めます。

拡大活動を通じて得られる人との出会いを大切に、仲間とともに考え、行動し、やり切る。その過程で委員会メンバー一人ひとりが互いを高め合いながら成長し、次の仲間を惹きつける力を磨いていきます。そして、この一年の経験を糧に、次の仲間を導くリーダーとしての力を育み、仲間とともに挑戦し続ける、強い絆で結ばれた委員会を築いていきます。

●事業計画

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉 LOM全体で拡大に取り組む体制を整え、拡大活動を一部の人の努力に頼らず、全メンバーが当事者意識を持って行動することを目的とする。

〈方法〉 毎月拡大会議を実施することで各委員会との連携を図り、候補者との出会いの場や交流機会を創出する。委員会内では拡大進捗の共有を行い、拡大を日常的な活動に組み込む。

◇シニア総会の開催（2月）

〈目的〉 前年度の活動報告と本年度の体制共有を通じて、シニアとの信頼関係を強化し、拡大への協力を依頼する。

〈方法〉 シニア会長・事務局・関係委員会と連携し、会の趣旨を明確にした設営・運営を行う。

◇オールメンバーの集いの企画・実施（6月）

〈目的〉 現役メンバーとシニアが一堂に会し、福岡青年会議所の歴史と絆を再確認するとともに、次代へつながる交流の場を創出し、拡大への協力体制を築く。

〈方法〉 周年事業として位置づけ、式典・懇親を通じて先輩方の想いを共有する。関係委員会と連携し、設営・運営を行う。

◇会員に対し、拡大の重要性・手法を伝えるための通常例会の実施（11月）

〈目的〉 次年度以降につながる拡大活動の意識と実践力を高め、LOM全体に拡大のノウハウを共有する。

〈方法〉 拡大成功事例の共有や体験談を通じて、拡大活動の魅力と意義を伝える例会を設営する。

◇趣味の会に関する事項

〈目的〉 シニアメンバーと趣味の会を通じて親睦を深めることで信頼関係を強化し、拡大への協力体制を築く。

〈方法〉 各種趣味の会の会長と調整を図り、各会の運営補助、サポートを行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉 会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉 会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉 非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉 LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。



委員長	瀬尾 昂平
副委員長	吉山 慎一
拡大・総括幹事	本園 和大
運営幹事	大城 大
会計幹事	福永 光太郎
広報幹事	梅木 涼
補佐幹事	野元 優
	亀井 亮太
	酒井 健青
	進藤 貴聡
	末永 純也
	豊田 幸平
	新納 尚祐
	松尾 恵介

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月			6月		ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年・短縮例会実施（6月）
12月			7月	□討議□審議□協議□審議 （オールメンバーの集い報告）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		京都会議	8月	□討議□協議（11月通常例会計画）	九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月	□討議□協議□協議□協議 （オールメンバーの集い計画）	第3エリア合同例会 シニア総会	9月	□討議□審議（11月通常例会計画）	
3月	□討議□審議□協議□審議 （オールメンバーの集い計画）		10月		全国大会（神戸）
4月			11月		世界会議（クランク）・釜山周年・通常例会実施（11月度）
5月		下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・広島定期歓会	12月	□討議□審議（11月通常例会報告）	送るタベ

研 修 委 員 会

委員会スローガン【利他の精神が、新たな自分を創造する】



委員長 舩田 和博
副委員長 田中 海人
拡大総括幹事 竹田 一国
運営幹事 山下 卓也
会計幹事 葉山 裕樹
広報幹事 大久保 喬史
補佐幹事 伊藤 佳央
池田 翔一
坂下 利一郎
清水 悠輔
高橋 亜季
樋口 春菜
前田 隆一郎

●基本方針

青年会議所はまちの未来を作っていく団体です。明るい豊かな社会を実現するために、三信条である友情・奉仕・修練を元にしてJC運動を行なっております。ここで得られる様々な機会は、会社や家族の理解があってこそ成りうるものであり、青年会議所で学んだ全てをまち、会社、家族に発信する必要があります。

福岡青年会議所は、まちづくり・ひとづくりを掲げ、73年の歴史の中で、福岡のまちに多くのインパクトを与えてきました。この源泉であるひとづくりにおいて「研修委員会」は福岡青年会議所の要として代々受け継がれてきました。福岡青年会議所は、「まちの未来」を想い活動している団体です。まちの課題に対して、常にアンテナを張り、当事者意識を持った人財を早期に作り出すことが必要です。

本年度研修委員会は、仮入会者への指導・オリエンテーションを通して、誰かのために動く利他の精神を養い、まちの課題に対して当事者意識を持って行動できる人財を育成するためのオリエンテーションを実施します。また、仮入会者には福岡青年会議所メンバーとの多くの交流の機会があります。研修委員会と福岡青年会議所メンバー全員で手を取り合うことで、意味のある研修を実施することができます。そして、福岡青年会議所メンバーが仮入会者の成長を考えることで、より強固なLOMにしていけます。

サウスサイゴンJCに関しては、アテンドや式典に参加し、密に接することで生活様式や異文化を相互に学ぶことができ、これまで培ってきた関係をより強固にできるものにしてまいります。

利他の精神で動くことにより、仮入会者が、新たな自分自身を創造していくことに繋がり、仮入会者に指導を行う私たちも同様に、利他の精神で動くからこそ気づける自分自身を通して、新たな自分を創造できる一年にしていまいります。

そして、集う機会が多いからこそ、一つひとつ集う意味を伝え、委員会メンバーを巻き込んでいきます。他責ではなく自責で当事者意識を持ってJC活動に取り組む人財を作り出してまいります。

●事業計画

◇仮入会者への指導・研修に関する事項

〈目的〉誰かのために行動する利他の精神を養い、率先して行動できるJAYCEEの育成。

〈方法〉オリエンテーションを通し、友情・奉仕・修練を経験させる。また、オブザーブなど正会員との交流を通して、福岡青年会議所の魅力を体験させ、団体としての存在意義・目的・理念を伝える。

◇新入会者同期会事業に関する事項

〈目的〉新入会者が兄弟同期・同期との絆・メンバーとの交流・青年会議所の仕組みを理解する。

〈方法〉研修委員会指導のもと、事業構築のルールを学び、1年前に入会した同期会（兄弟同期）の1周年のお祝い事業を時代に即した形で実施する。

◇やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項

〈目的〉三同期会を中心に社会福祉・ボランティア活動を通し、三信条を学ぶ場とすること。

〈方法〉やすらぎ荘の意見を福岡JCで誠意検討し、直近の三同期会を中心に企画・運営を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月	□討議□協議（前期オリエンテーション事業計画）		6月	□討議□審議□前期（前期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議 （ところん事業報告・後期仮入会）	中期仮入会者オリエンテーション② ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・ 香港周年
12月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業計画）		7月	□討議□協議（後期オリエンテーション事業計画）	ところん事業実施・前期仮入会 中期仮入会者オリエンテーション③ サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		前期仮入会者オリエンテーション① 京都会議	8月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□協議□協議□協議（やすらぎ荘事業計画）	九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月	□討議□討議□討議□討議 （ところん事業計画・後期仮入会）	第3エリア合同例会 前期仮入会者オリエンテーション②	9月	□討議□討議□討議□討議 （ところん事業報告・前期仮入会） □討議□審議□協議□審議（やすらぎ荘事業計画） □討議□審議（中期オリエンテーション事業報告）	後期仮入会者オリエンテーション①
3月	□討議□協議（中期オリエンテーション事業計画）	前期仮入会者オリエンテーション③	10月	□討議□討議□討議□討議 （ところん事業計画・中期仮入会）	後期仮入会者オリエンテーション② やすらぎ荘事業実施 全国大会（神戸）
4月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業計画）	ところん事業実施・後期仮入会	11月	□討議□審議□協議□審議（やすらぎ荘事業報告）	ところん事業実施・中期仮入会 後期仮入会者オリエンテーション③ 世界会議（クラーク）・釜山周年
5月	□討議□討議□討議□討議 （ところん事業計画・前期仮入会）	中期仮入会者オリエンテーション① 下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・ 広島定期交流会	12月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議 （ところん事業報告・中期仮入会）	送るタベ

総務財政規則審査委員会

委員会スローガン【それぞれの仲間とともに高め合う】



委員長 高見 慎也
副委員長 牛島 啓慈
拡大・総括幹事 中間 悠介
運営幹事 島田 優
会計幹事 下田 悠生
広報幹事 山本 悠斗
補佐幹事 西牟田 啓太
安澤 慎司
岩切 拓也
上野 誠司
内野 蓉子
高木 亮
都築 駆琉
長澤 一輝

●基本方針

福岡青年会議所は、ブランディング力の弱さ、地域社会からの認知や評価の低下に加え、40歳以下の人口自体が減少しているという社会的背景もあり、メンバー数が減少傾向にあります。その結果、委員会数が減少し、各委員会が担う所務が増加しています。それに伴い、作成する議案の数も増え、委員会運営における負担が大きくなっているのが現状です。だからこそ当委員会は、福岡青年会議所の各委員会がまちに対してより良い影響を与える事業を実現できるよう、議案の質を高めていく必要があります。単に議案をチェックするだけではなく、「ともに議案をつくる」という姿勢を大切に、素案の段階から各委員会の相談を受け、共に議案を構築してまいります。

また、福岡青年会議所の根幹をなす理事会や常任理事会の円滑な運営は、組織の発展において不可欠です。その会議体を責任持って設営することで、質の高い議論が行うことが可能になり、会議の充実が事業の精度を高め、結果として福岡青年会議所全体の力を底上げすることにつながります。当委員会はその基盤を支える存在として、福岡青年会議所を根底から支えてまいります。

当委員会は「褒賞」という大切な役割を担っています、褒賞を受賞したメンバーが青年会議所活動により意欲的に取り組み、一人でも多くのリーダーが誕生してくれることを願っています。そして、この重要な所務に委員会メンバー全員が一丸となって取り組むことで、委員会の結束力をより強固なものとしていきます。

当委員会は他の委員会とは異なり、メンバーが構築した議案を客観的に確認し、指摘や修正を行うことが主な役割ですが、その過程で、議案を構築したメンバーの考えや意図に触れ、議案づくりの本質を学び、翌年度以降に自ら議案を構築する際に活かせる経験を積むことができます。こうして、委員会メンバーが議案構築の力を磨き、未来の福岡青年会議所を力強く牽引していくリーダーへと成長していきます。

●事業計画

◇短縮例会の実施

〈目的〉LOMの進捗や方向性を確認すること。

〈方法〉効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営

〈目的〉各会の効率性を求め、より有益性の高い会議を運営して福岡青年会議所の意思を明確にすること。

〈方法〉各会議体において役割分担を明確化、出欠確認の徹底、時間厳守を行う。また、正確な議事録を作成し、決定した意思とそのプロセスを明確化する。

◇各委員会の議案上程スケジュール管理

〈目的〉各議案が適正に協議・審議されるように、各委員会に周知徹底すること。

〈方法〉上程スケジュールの締切りを徹底するため、クラウドシステムを利用し各議案状況を把握しアナウンスを行う。

◇各委員会の事業に関する議案審査

〈目的〉青年会議所のルールに則った議案となるように整えること。

〈方法〉各議案に対し、統一語句、誤字脱字のチェックを行う。

◇会員褒賞の企画・実施

〈目的〉メンバーのモチベーションが高くなるように、各種賞を設定すること。

〈方法〉賞内容は分かりやすく、かつ、取り組みやすいものとし、推薦方法及び選考基準に不明瞭な部分がないように褒賞内容を企画する。

◇各委員会議事録、事業報告の管理・維持

〈目的〉各委員会の活動内容を把握できるようにするため、各委員会の議事録を管理すること。また、今後の事業構築に資するため、事業報告書を管理すること。

〈方法〉各委員会への議事録・事業報告書の期限内提出のアナウンスを行う。また、JCブランディング向上委員会と連携し、福岡青年会議所ホームページの会員ページで閲覧できるようにする。

◇会員規約・定款などに関する事項

〈目的〉会員規約・定款の意義を周知徹底し、組織がそれに準じて動くように努めること。

〈方法〉正会員に会員規約・定款の徹底を促し、新入会メンバーには入会審査時に説明を行う。

◇会員規律、入会に関する事項

〈目的〉会員規律の意義を周知徹底し、組織が永続的に続くように努めること。

〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会メンバーには入会審査時に説明を行う。

◇役員セミナーの設営

〈目的〉リーダーシップや組織論について学び、理事や役員の在り方について改めて考え組織の活性化を図ること。

〈方法〉目的達成するに際して相応しい講師をお招きし、リーダーシップ論について講演していただきます。

総務財政規則審査委員会

◇副、幹事セミナーの設営・運営

〈目的〉各会の運営方法、スタッフの各役割を明確にし、セミナーを通じて全メンバーに周知し、委員会活動の円滑化を図ること。

〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会メンバーには入会審査時に説明を行う。

◇財政規則審査セミナーの設営・運営

〈目的〉財政面、規則面に関する知識や見識を深めていただき、より精度の高い議案や収支計画の実現を目指すこと。

〈方法〉セミナー資料を再構築し、修正指摘が多い箇所を中心に分かりやすい説明をし、議案の精度を高めていただく。

◇褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）

〈目的〉当該年度の事業について、褒賞申請を行うことで、福岡青年会議所の魅力を全国に発信すること。

〈方法〉褒賞内容の確認をし、申請の段取りを把握したうえで、申請を行う。

◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査

〈目的〉メンバーからの会費を有効的に、また効果を最大化できるように事業予算が適正に計画され、実行されているかを厳正に審査すること。

〈方法〉各事業において、背景・目的・手法を確認し、予算が適正に使用、処理されているかを精査する。

◇委員会事業に関するコンプライアンス審査

〈目的〉各事業がコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、青年会議所としてのルール、社会一般のルールを順守していくこと。

〈方法〉事業内容がコンプライアンスに則っているか、青年会議所としてのルールと社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。

◇対外広報に関するコンプライアンス審査

〈目的〉対外へと広報するコンテンツがコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、青年会議所としてのルール、社会一般のルールを順守していくこと。

〈方法〉対外広報する内容がコンプライアンスに則っているか、青年会議所としてのルールと社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。

◇対外アンケートに関する事項

〈目的〉各種行事、事業の参加者からアンケートをいただくことで、参加者から見る福岡青年会議所への情報を知ること。

〈方法〉各種行事、事業の参加者へQRコードでの配布や対外用LINE@にてアンケートを回収し情報収集を行う。

◇会員情報の更新・管理に関する事項

〈目的〉会員情報の更新・管理をおこない掲載している情報に間違いがないようにすること。

〈方法〉登録されている電子手帳の情報の更新・管理、間違っている情報は修正をします。

◇広島定期交歓会の参加促進

〈目的〉広島で実施される広島定期交歓会において、一人でも多くのメンバーが友好青年会議所である広島青年会議所との交流を図ること。

〈方法〉懇親会等を通じて、互いの親睦を深め、今後の青年会議所活動に活かせる情報を共有できる場に会員の参加を促す。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また、委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事が推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生したときに、機動的に災害支援を行い、被災地や被災された市民に貢献すること。

〈方法〉LOM内で策定された行動計画・行動マニュアルを理解し、日常的に防災意識を持つことで、非常時に機動的にかつ組織的に行動できるように努める。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2025年 11月	□討議□協議□協議□協議（褒賞議案計画）	副・幹事セミナーの実施 財政規則セミナーの実施	6月	□討議□協議（9月短縮例会計画）	ASPAC（新潟）・オールメンバーの集い・香港周年
12月	□討議□審議□協議□審議（褒賞議案計画）	役員セミナーの実施	7月	□討議□審議（9月短縮例会計画）	サマーコンファレンス（横浜）
2026年 1月		京都会議	8月		九州地区大会（中津）・サウスサイゴン周年
2月		第3エリア合同例会	9月		短縮例会実施（9月）
3月			10月	□討議□審議（9月短縮例会報告）	全国大会（神戸）
4月			11月		世界会議（クラーク）・釜山周年
5月		下関周年・福岡ブロック大会（久留米）・広島定期交歓会 トリオ会議	12月		送るタベ 総会の実施

一般社団法人 福岡青年会議所
2026年度 室・委員会 所務分掌規程

<p>■魅力向上室</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会神戸大会への参加促進、 LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 香港シティJCに関する事項</p>	<p>■JCブランディング向上委員会</p> <p><input type="checkbox"/> LOMの運動、活動が多くの人目に触れるような情報発信の仕組みづくり</p> <p><input type="checkbox"/> LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施</p> <p> ◇LOMホームページの管理・運営</p> <p> ◇LOM紹介映像の制作</p> <p> ◇各種行事・事業の対外・対内への事前・事後情報発信</p> <p> ◇SNSなどを利用した情報発信の企画・管理・運営</p> <p> ◇プレスリリースに関する事項</p> <p> ◇持続可能な組織づくりのための継続的なファンづくり</p> <p><input type="checkbox"/> LOM活動の効果的な対外情報発信に関する企画・管理・運営</p> <p> ◇外部団体からの取材などに関する対応</p> <p> ◇LOM活動における写真・動画などの記録・管理</p> <p><input type="checkbox"/> 新春例会の実施（1月）</p> <p><input type="checkbox"/> 国際金融都市としての未来を描くことのできる公開例会の情報発信（4月）</p> <p><input type="checkbox"/> 誰もが新たなビジネスに取り組むことができるための公開例会の情報発信（5月）</p> <p><input type="checkbox"/> ブランディングの重要性をLOM内に周知するための通常例会の実施（7月）</p> <p><input type="checkbox"/> 対外アンケートに関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非会員の個人情報の管理に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p> <p>■JCエンゲージメント向上委員会</p> <p><input type="checkbox"/> 福岡ブロック第3エリア合同例会の実施（2月）</p> <p><input type="checkbox"/> ファミリーレクリエーション例会の実施（3月）</p> <p><input type="checkbox"/> LOM内の交流を促進する通常例会の実施（10月）</p> <p><input type="checkbox"/> 短縮例会の実施（12月）</p> <p><input type="checkbox"/> 送る夕べの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 出向者の支援に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
<p>■人財育成室</p> <p><input type="checkbox"/> ASPAC（新潟）への参加促進、 LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 釜山JCに関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> トリオJCに関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 九州地区大会への参加促進</p>	<p>■金融リテラシー向上委員会</p> <p><input type="checkbox"/> 金融リテラシー向上のための調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・研究に基づく事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 国際金融都市としての未来を描くことのできる公開例会の実施（4月）</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p> <p>■ビジネスデザイン委員会</p> <p><input type="checkbox"/> 第一創業、第二創業を推進する事業に関する調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・研究に基づく事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 誰もが新たなビジネスに取り組むことができるための公開例会の実施（5月）</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
<p>■子ども未来室</p> <p><input type="checkbox"/> 福岡ブロック大会への参加促進</p>	<p>■グローバル都市創造委員会</p> <p><input type="checkbox"/> グローバル都市を推進していく事業に関する調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・研究に基づく事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 福岡の新たな価値創造を考える公開例会の実施（8月）</p> <p><input type="checkbox"/> 世界会議（クラーク）の参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p> <p>■芸術文化創造委員会</p> <p><input type="checkbox"/> アートを活用したまちづくり・ひとづくり事業に関する調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・研究に基づく事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 福岡の新たな価値創造を考える公開例会の実施（8月）</p> <p><input type="checkbox"/> 趣味の会に関する事項</p> <p> ◇茶道同好会の支援</p> <p><input type="checkbox"/> サマーコンファレンスの参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p> <p>■スポーツ文化創造委員会</p> <p><input type="checkbox"/> スポーツを活用したまちづくり・ひとづくり事業に関する調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・研究に基づく事業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 福岡の新たな価値創造を考える公開例会の実施（8月）</p> <p><input type="checkbox"/> 趣味の会に関する事項</p> <p> ◇迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブの支援</p> <p><input type="checkbox"/> サマーコンファレンスの参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>

<p>■会員開発室</p> <p>□サウスサイゴンJCに関する事項</p>	<p>■会員拡大委員会</p> <p>□会員拡大に関する事項</p> <p>□オールメンバーの集いの企画・実施（6月）</p> <p>□短縮例会の実施（6月）</p> <p>□会員に対し、拡大の重要性・手法を伝えるための通常例会の実施（11月）</p> <p>□シニアクラブに関する事項</p> <p>□シニア総会の開催（2月）</p> <p>□趣味の会に関する事項</p> <p> ◇じゃがいもクラブの設営・運営</p> <p> ◇ぼうふら会の設営・運営</p> <p>□会員研修に関する事項</p> <p>□非常災害時における支援に関する事項</p> <p>■研修委員会</p> <p>□仮入会者への指導・研修に関する事項</p> <p>□新入会者同期会事業に関する事項</p> <p>□やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項</p> <p>□会員拡大・研修に関する事項</p> <p>□非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p>■総務財政規則審査委員会</p> <p>□短縮例会の実施（9月）</p> <p>□総会、理事会、常任理事会の設営・運営</p> <p>□各委員会の議案上程スケジュール管理</p> <p>□各委員会の事業に関する議案審査</p> <p>□会員褒賞の企画・実施</p> <p>□各委員会議事録、事業報告書の管理・維持</p> <p>□会員規約・定款などに関する事項</p> <p>□会員規律、入会に関する事項</p> <p>□役員セミナーの設営・運営</p> <p>□副、幹事セミナーの設営・運営</p> <p>□財政規則審査のセミナーの設営・運営</p> <p>□褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）</p> <p>□委員会事業に関する予算、決算の事前審査</p> <p>□委員会事業に関するコンプライアンス審査</p> <p>□対外広報に関するコンプライアンス審査</p> <p>□対外アンケートに関する事項</p> <p>□会員情報の更新・管理に関する事項</p> <p>□広島定期交歓会の参加促進</p> <p>□会員拡大・研修に関する事項</p> <p>□非常災害時における支援に関する事項</p>

事務局長・常務理事・セクレタリー 所務分掌

<p>事務局長</p>	<p>□外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項</p> <p>□会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項</p> <p>□事務局の運営</p> <p>□常務・セクレタリーの統括</p> <p>□各諸会議の監督</p> <p>□北九州JCとの交流に関する事項</p> <p>□会員拡大・研修に関する事項</p> <p>□非常災害時における対応窓口</p> <p>□糟屋JCの支援に関する事項</p> <p>□その他</p>
<p>常務理事</p>	<p>□理事長の同行及び所務の補佐</p> <p>□専務理事、事務局長のサポート</p> <p>□理事長のスケジュール管理、調整に関する事項</p> <p>□京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p>□その他</p>
<p>セクレタリー</p>	<p>□理事長の同行及び所務の補佐</p> <p>□理事長のスケジュール管理、調整に関する事項</p> <p>□その他</p>

伊 東 健 太 郎											直前理事長	
副理事長	田 継 嘉 貢		原 翼		田 原 義 也			鶴 和 晃		専務理事 小 菅 良 助	尾 本 勝 征	
室	魅力向上室		人財育成室		子ども未来室			会 員 開 発 室			監 事	
室長	小 柳 佑 貴		浦 田 慎 也		近 藤 圭			坪 井 智 之			大 幡 則 文	
委員会	JCブランド・パング 向上委員会	JCエンゲージメント 向上委員会	金融リテラシー 向上委員会	ビジネスデザイン 委員会	グローバル都市 創造委員会	芸術文化 創造委員会	スポーツ文化 創造委員会	会員拡大委員会	研修委員会	総務財政規則 審査委員会	法制顧問 立 部 真 康	
委員長	吉丸 耕平	宮崎 祥平	友田 圭祐	三苫 弘典	菅原 是道	羽川 礼華	近藤 瑛理	瀬尾 昂平	舩田 和博	高見 慎也		
副委員長	山下 一喜	瀬戸口 将太郎	山口 武蔵	藤岡 勇樹	小池 直人	前田 幹太	花田 真仁	吉山 横一	田中 海人	牛島 啓慈		
拡大・総括幹事	古賀 彩華	村上 瑠	加地 英紀	氣賀澤 暢真	白水 雄二	廣田 匡則	本間 晃平	本園 和大	竹田 一国	中間 悠介	財政顧問 西 方 亮 祐	
運営幹事	佐藤 大輔	副田 直矢	林 伸太郎	山本 雄貴	徳田 成寿	金 涼佳	熊本 大治	大城 大	山下 卓也	島田 優		
会計幹事	土井 勇太	河野 秀平	新井 敏晃	山田 明仁	青柳 竜太	吉中 佑太	倉富 大樹	福永 光太郎	葉山 裕樹	下田 悠生		
広報幹事	坂田 望	秋吉 光太郎	福島 憲人	島本 導晃	青木 佑介	中村 凌	畑原 歩	梅木 涼	大久保 喬史	山本 悠斗	事務局長 中 井 新 一	
補佐幹事	岩永 喜朗	中谷 元優	古川 紀嘉	小野 可那絵	岡田 一志	市瀬 正明	古閑 勇佑	野元 優	伊藤 佳央	西牟田 啓太		
(出向理事)	濱田 正輝		牛島 淳嗣			倉掛 裕輔						
委員 1.	佐伯 瞳	大前 恒明	川島 裕司	阿部 秀樹	石井 光	桶原 さつき	市丸 浩太	亀井 亮太	池田 翔一	安澤 慎司	常務理事 安心院 将平 松 山 馨	
2.	高辻 浩世	小野瀬 泰星	合谷 賢太	坂田 圭未	鎌田 晋太郎	高畑 隼人	亀元 友弥	酒井 健青	坂下 利一郎	岩切 拓也		
3.	千種 祐香	工藤 大明	近藤 桃香	中川 昂大	津田 浩	坂田 裕之	下川 浩平	進藤 貴聡	清水 悠輔	上野 誠司		
4.	濱 直章	坂本 稔樹	長島 義弘	新納 裕美子	平川 靖徳	篠崎 絵理	正岡 憲	末永 純也	高橋 亜季	内野 啓子	セクレタリー 石 川 卓 弥 黒 木 祐 太 山 下 正 太	
5.	光山 将	左近 春香	平井 裕登	西原 宗佑	平野 由衣	永松 賢二	水城 寛司	豊田 幸平	樋口 春菜	高木 亮		
6.	横田 銀次	橋本 真杜	松岡 大輝	野田 真植	保利 一晶	米村 祐太	峰崎 悠	新納 尚祐	前田 隆一郎	都築 駆琉		
7.	吉田 伸彦	前田 翔吾	大和 尚之	針尾 洋平	三浦 匠			松尾 恵介		長澤 一輝	休 会 者 河 津 凧	
8.		四通田 美果		山田 哲也								
9.												
10.												
11.												
12.												

青年会議所の概況

■ JCI 加盟国 114 NOMs

■ JCI 加盟 JC 数 4,646 LOMs 会員数 147,570 名 < 2025年1月現在 >

■ 日本 JC 加盟 JC 数 671 LOMs 会員数 26,029 名 < 2025年10月1日現在 >

■ 福岡 JC 会員数 162 名 < 2026年1月1日推定 >

■ 福岡 JC 創立関連

《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 宮崎 JC

《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日

《 一般社団法人

移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日

■ スポンサー JC 飯塚 JC 、久留米 JC 、直方 JC 、つくし JC 、糸島 JC、
糟屋 JC

■ シスター JC 釜山 JC (韓国) 1965 年 4 月 20 日

※下関 JC と共にトリオ JC として姉妹締結

城市 JC (香港) 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結

サウスサイゴン JC (ベトナム)

2016 年 11 月 1 日 姉妹締結

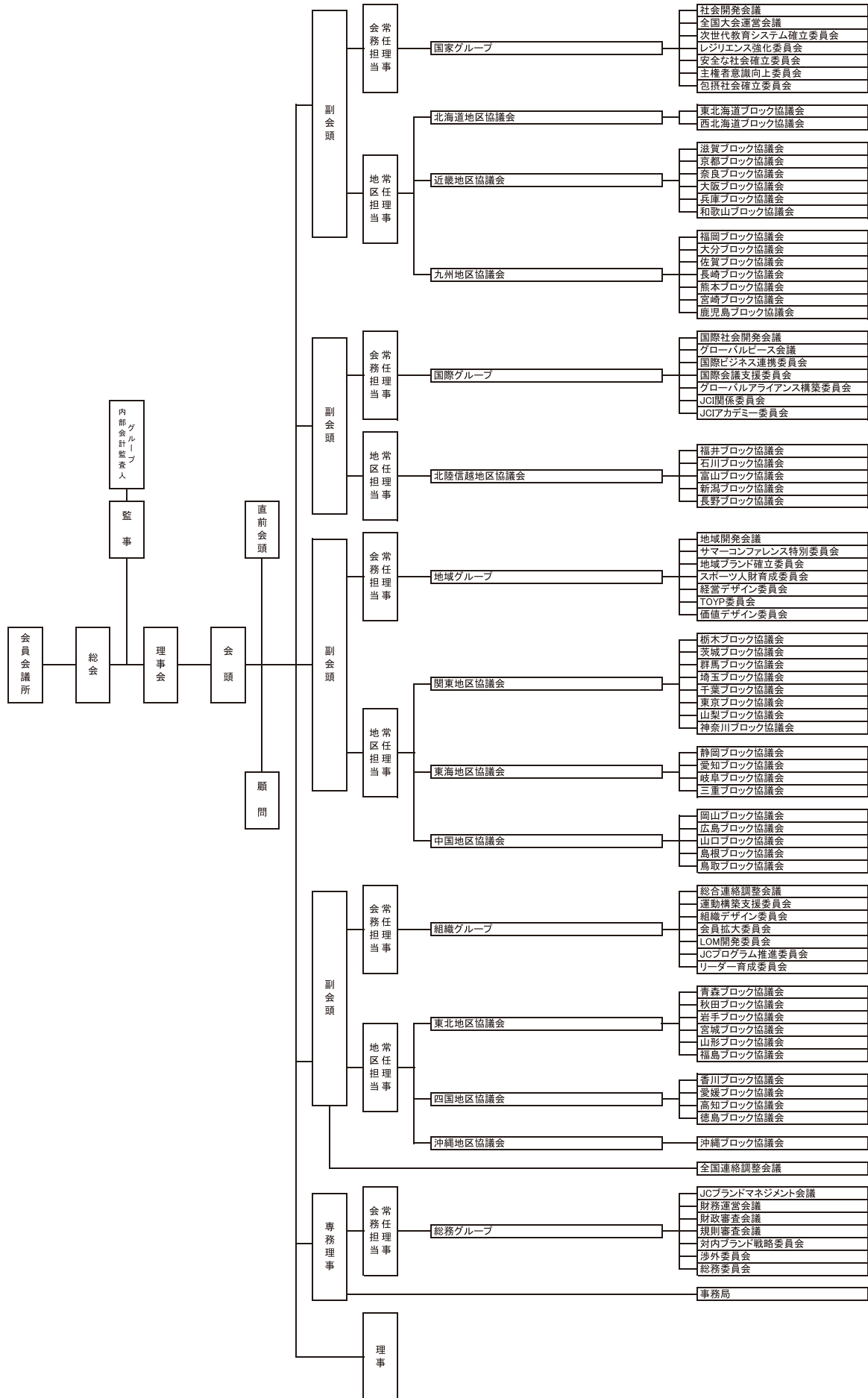
■ 友好 LOM 北九州 JC 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結

広島 JC 1986 年から毎年、交歓会を開催

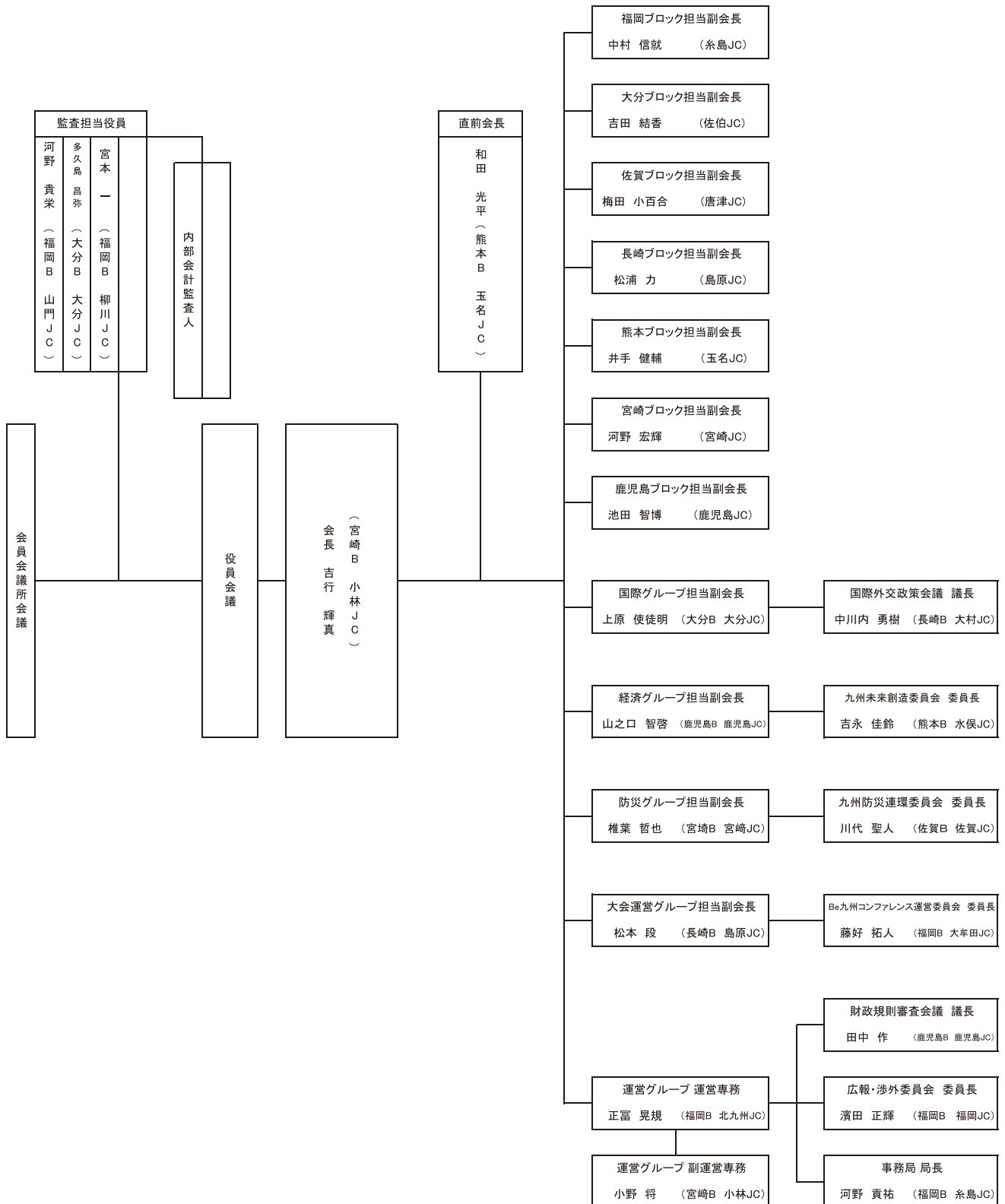
公益社団法人日本青年会議所

2026年度 基本資料

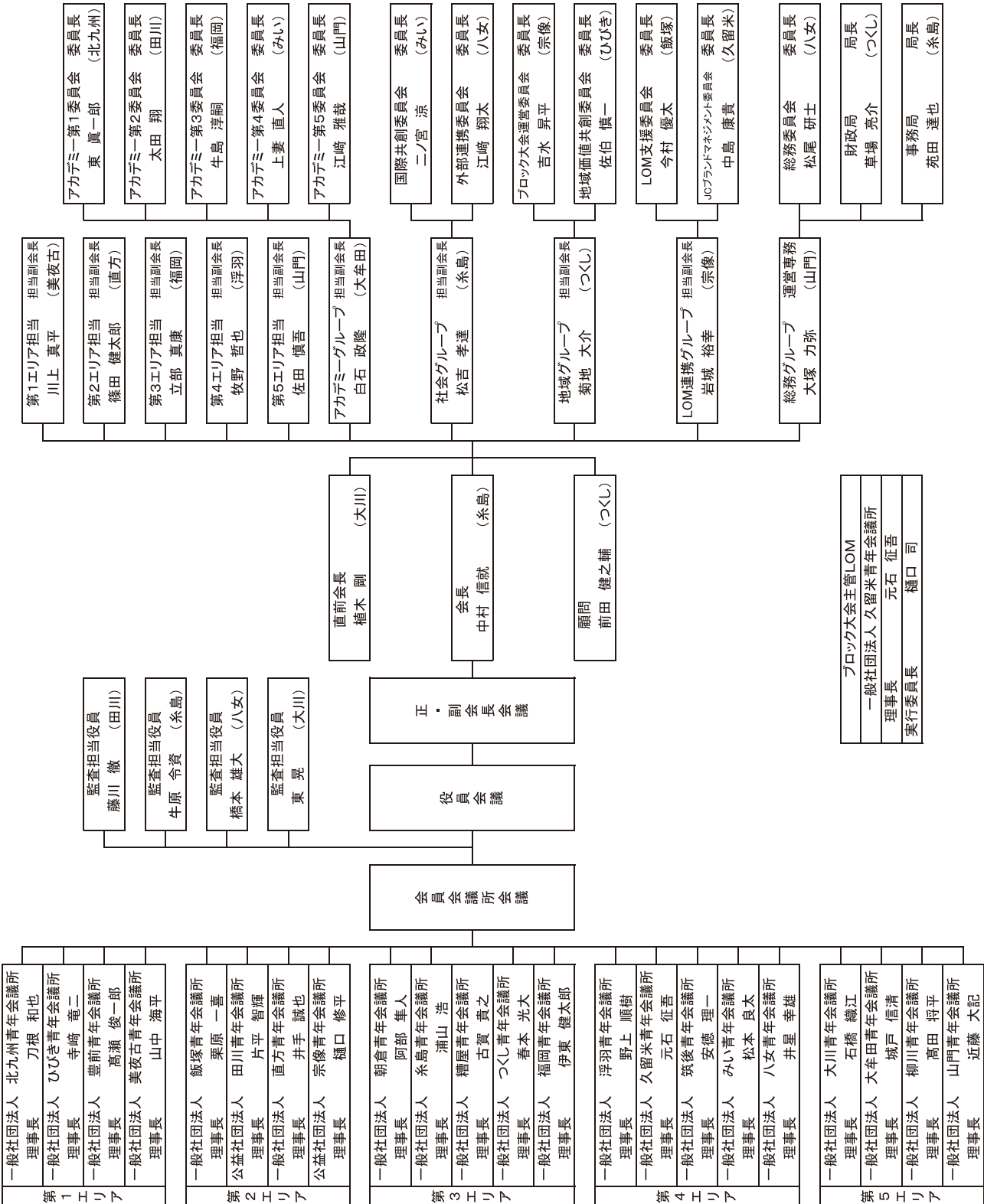
組織図



公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 2026年度 組織図



2026年度 福岡ブロック協議会 組織図



ブロック大会主管LOM
一般社団法人 久留米青年会議所
理事長 元石 征吾
実行委員長 樋口 司

福岡青年会議所 歴代理事長

第1期 (1953年 2月～6月)	橋上 保久	第38期 (1990年)	真鍋 博俊
第2期 (1953年7月～ 1954年6月)	橋上 保久	第39期 (1991年)	小林 専司
第3期 (1954年7月～ 1955年6月)	具島 正二	第40期 (1992年)	樺島 逸兵
第4期 (1955年7月～ 1956年12月)	具島 正二	第41期 (1993年)	菅原 正道
第5期 (1957年)	伊藤 剛平	第42期 (1994年)	河邊 哲司
第6期 (1958年)	高松 光彦	第43期 (1995年)	安川 哲史
第7期 (1959年)	武内 徳夫	第44期 (1996年)	松山 政司
第8期 (1960年)	野上 恭敬	第45期 (1997年)	吉松 修
第9期 (1961年)	坂本 行雄	第46期 (1998年)	田中 彰洋
第10期 (1962年)	高松 邦彦	第47期 (1999年)	新町 敦志
第11期 (1963年)	喜多村辰男	第48期 (2000年)	藤野 利浩
第12期 (1964年)	四島 司	第49期 (2001年)	井上 貴博
第13期 (1965年)	大賀禮太郎	第50期 (2002年)	岩本 仁
第14期 (1966年)	麻生 純三	第51期 (2003年)	廣田 稔
第15期 (1967年)	久野 桂一	第52期 (2004年)	井上 博行
第16期 (1968年)	中島 邦補	第53期 (2005年)	宮崎 鐘子
第17期 (1969年)	栗栖健一郎	第54期 (2006年)	小池 勝利
第18期 (1970年)	田中丸善司	第55期 (2007年)	富永 太郎
第19期 (1971年)	後藤 隆雄	第56期 (2008年)	新開 裕司
第20期 (1972年)	洞 尚	第57期 (2009年)	大村 光
第21期 (1973年)	江口昭八郎	第58期 (2010年)	大山 哲寿
第22期 (1974年)	金子 宜嗣	第59期 (2011年)	長沼 慶也
第23期 (1975年)	近江 福雄	第60期 (2012年)	末松 大和
第24期 (1976年)	古賀 秀策	第61期 (2013年)	田川 幸平
第25期 (1977年)	加地 良一	第62期 (2014年)	森山 新樹
第26期 (1978年)	富永 恒二	第63期 (2015年)	中田 泰平
第27期 (1979年)	榎本 一彦	第64期 (2016年)	藤 眞臣
第28期 (1980年)	冬至 洋一	第65期 (2017年)	鈴木 大輔
第29期 (1981年)	新川 宏輔	第66期 (2018年)	田島 敬悟
第30期 (1982年)	青柳 泰秀	第67期 (2019年)	岩木 勇人
第31期 (1983年)	熊谷 信治	第68期 (2020年)	出田 正城
第32期 (1984年)	福永 周兵	第69期 (2021年)	彌登 義明
第33期 (1985年)	榎本 正弘	第70期 (2022年)	西嶋 聖
第34期 (1986年)	中牟田健一	第71期 (2023年)	前川 裕貴
第35期 (1987年)	中村 量一	第72期 (2024年)	石坂 泰三
第36期 (1988年)	財津 重美	第73期 (2025年)	尾本 勝征
第37期 (1989年)	石坂 博史		

出向外部団体一覧

	団体名
1	NPO 法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡
2	アジア太平洋子ども会議・イン福岡支援の会
3	アジア太平洋子ども会議・イン福岡実行委員会
4	BCIO (Bridge Club International Organization)
5	福岡・US オークランド姉妹都市委員会
6	福岡・広州姉妹都市委員会
7	福岡・ボルドー姉妹都市委員会
8	福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会
9	北方領土返還促進福岡県民協議会
10	一般社団法人 九州市民大学
11	福岡市民の祭振興会
12	福岡市地球温暖化対策市民協議会
13	福岡フィルムコミッション
14	福岡市交通安全推進協議会
15	福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会
16	福岡市犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部
17	みらいプロジェクト実行委員会
18	那珂川水上交通活性化推進協議会
19	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
20	地域司法連絡協議会
21	FUKUOKA Christmas Market 実行委員会
22	福岡マラソン実行委員会
23	アビスパ・グローバル・アソシエイツ (AGA)
24	一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会
25	福岡トライアスロン組織委員会
26	グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム
27	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会
28	博多湾芸術花火開催委員会
29	福岡県スポーツ推進審議会 スポーツ未来像部会



一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 ベイサイドプレイス博多 C棟

TEL: 092-263-6333 FAX: 092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

<https://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail jci-fukuoka@dream.jp